

する所あらば此の衰運を挽回する敢て難きにあらざるべし

佐々木盛綱城趾

は磯部温泉場より東南十町字城山と稱する所にあり

建仁中佐々木盛綱の城く所にして其の高さ十有餘、周圍七八町あり、頂

上は稍や平垣にして樹木繁茂し微かに其の遺趾を存するのみ明治廿一年

磯部及び鷺宮村の有志者謀りて遊園地となせり

佐々木盛綱の墓

佐々木盛綱後に入道して西念といふ其墓は磯部温泉

より東十餘町、上磯部村磯明山松岸寺(曹洞派禪林)に在り其墓標は二基

にして形状は各同一なり一基は高さ三尺四五寸、一基は稍や低し、其大

なる方の石塔中圓きところと臺石とに梵字を彫り其の左右に文字あり正

應六年四月日の七字は微かに讀得らるれど其他は磨滅して字体分明なら

ず明治廿年中顯官某此地に入浴中同寺に詣り世に名高き勇士の墓を湮滅

するを惜み「今もなほ城山まつにかゝりけり昔の秋の弓張の月」と詠

じたとあり今は周圍に石垣を積み又樹木をも栽つけたるが是は磯部近

村中心ある人々の義捐に成りしものなりとぞ

大野九郎兵衛の墓

は同じく松岸寺境内に在り九郎兵衛は播州淺野の

家臣にして芝居に演ずる斧九太夫の事なり元祿年間赤穂城明渡しの後磯

部の郷に居を下し子供を集めて手習を教え其日の活計を營み居たるが寛

延四年病を以て逝り此の寺に葬ひりしといふ今尙此地には九郎兵衛の臨

本を所持するものあり其墓石は高さ二尺餘の自然石にして表面に慈望遊

謙靈と彫つたり

横野

は人見村に屬し人見の原とも云ひ磯部を距る凡ろ十五丁に過ぎ

ず此の曠原は古へより董の名所にして春至れば一面に紫を染出して頗る

美觀なり、夫木集に「春のくるゆかりなるらん紫の根はさ横野に鶯のな

く」とあるは此原を詠みしなりと

●松井田停車場 (群馬縣上野國碓氷郡松井田宿)

〇松井田町

は磯部停車場より三哩七十一鎖の所るに在り、戸數九百

余、人口三千二百十餘、碓氷郡中安中に亞で繁昌の土地なり、此地の近傍にて名所舊跡は第一妙義山にて次に圓坂山、射拔巖、百合若足跡石などあり其他數ヶ所の温泉もあれば順次案内すべし、又此驛には酢屋徳七郎、土屋茂右衛門等の旅店あり宿泊料へ下等二十錢、中等二十五錢、上等三十五錢、妙義山其他への案内者は旅店に於て周旋すべし賃金は道の遠近に依て定めあり

妙義山 是群馬縣北甘樂郡に屬し南は諸戸村より三里、北は碓氷郡五料村より二里、松井田停車場より三十八町とす、登山者の都合に依り磯部停車場を降りて是より人力車にて到るも可なり（車賃は妙義山阪下まで一人曳十六錢）又松井田驛より到るも可なり、何れにしても差たる便否あらざる可し、山は白雲、金洞（又中の嶽といふ）金鷄の三峯より成り満山老杉古楓多くして四時の光景に富み奇觀云ふべからず、山の北麓に在るを妙義町と云ひ人家二百戸ばかり、山間の僻地ながらも以前は小

繁華巷にして其中に在る十數戸の二階家は皆な野鴛鴦の宿處なりしを數年前廢娼論の爲めに其業を廢止せられ今は跡のみ残りて宿屋などになり居れり、旅館は菱屋傳兵衛といふが其中の最なるものにて室も清潔なれば都人士の此地に来る者は大概此家に宿し此處にて山案内の男を雇ひ見物するなり勿論下駄穿などにて登ると思ひも寄らねば脚絆草鞋にて甲斐よくしく打扮ち握飯の行厨を携さへるを可とす、偕市街より登ると數町にして郷社妙義神社あり、日本武尊を祀る社殿は壯嚴といふほどにはあらざれど丹塗の古廟にして老杉の間に神さびて見ゆ、四面には岩石聳え樹木茂りて幽邃極まりなし本社より猶ほ阪を登ると廿五町にして奥殿に達す、是より道漸く狭く溪路高底、雜樹枝を交へ秋風落葉の候に方りては梢は色々の秋色に染なされて全山錦繡の如し左方山の中央に洞門あり百合若大臣の射拔岩と云ふ、是より又登りて中の岳の一の華表のありし所に達すべし華表は何れの年か山火事にて燒失せしとて今は一基の石燈

籠のみ残り居れり、茲より信州の山々眼下に見え當山奇岩の一なり蠟燭
 岩も形變りて見ゆるなり是より、一本杉を見て少しく道を下れば路傍に
 苔蒸したる碑ありて「菅相承硯水」の五字を勒せり、其由来は知るべか
 らず是より路を右に轉じて登り行けば忽ちにして巖角道を遮ざるあり、
 之を踏躓え往くと須臾にして第一石門に達す巖下に立て仰ぎ望めば屹然
 として中天に聳え天槌を以て穿ち神鑿を以て扶れるかと怪しまるゝばか
 りにて其奇觀云ふ可らず、茲を過ぎて又巖角を踏み登攀すると一町許に
 して突然路窮まり怪崑迫り來る崑腹に鐵鎖あり、鐵鎖を攀ぢて纜かに岩
 上に登れば漸やくにして第二の石門に達す、第二は洞開するところ偉大
 ならず其觀遠く第一に及ばざれども嶮は洞中第一とす、前は數十丈の懸
 崖にして身は一條の鐵鎖に依るのみ誤まつて顛墜せば五軀は微塵となつ
 て終るべし、此石門を下り又路を求めて第三石門に達す、之を第一に比
 すれば丈低けれども洞口廣く前後の突障を望むと多く奇觀壯望實に金洞

第一の勝なる可し、此近傍には觀音岩、天人の卷物、虎ヶ石等奇石怪岩甚
 だ多し、是より數十歩にして又第四の石門あり洞穴僅かに三角形をなし
 て第一第二を見たる目には驚として奇とするに足らねども是より第三洞門
 を望めば偉觀云ふばかりなし、妙義山中洞門と稱する者此の他猶ほ十數
 ありと聞けど其の嶮峻能く常人の行くべき所にあらず偕第一石門より西
 の細道を屈曲して行く事凡そ半丁許りにして高さ四五尺許りの岩石を降
 りやがて平地に出れば茲に妙義神社の社務所あり登山者は此處にて休息
 するを得べし此の奥の院より望めば岩石四方に屹立して風光云ふばかり
 なく其背後に當り殆んど蒼穹をも支へんばかりに見ゆる巖上に白幣の風
 に翻へりて銀の如くに輝き見ゆるは是れ當山中にて怪岩の一なる天狗の
 鬚摺岩にありける實にや斷崖屏風を建たる如く右も左も足とまりなき
 を鐵鎖に攀て登り行けば又二つの大岩石峙たち其間は何なる小男にて
 も身を横こさまにせざれば入り得ざる程の狭さなるが左の方の岩上より

又一條の鐵鎖下り居れり之を登れば上には又一の大巖の左の方に在るありて其肩に斜めに架けたる鐵の梯子あり之を登ればやうく彼の自幣の在る所に達するなり、其高さ凡そ三百尺ありといふ、其岩の嶮立するは宛かも劍を立列ねたるが如きを以て天狗の鬚剃と云ひ、又登るに我が鬚を摺るほとなるを以て鬚摺とも云ふとかや、偕此奇景を探り畢らば再び妙義町に歸り時間早ければ松井田驛又は磯部迄來りて温泉に其日の汗を洗ひ去るも妙なるべし

郷原鑛泉 是松井田町の東方半里許り郷原村字馬放し場より湧出す碓氷川の北岸に沿ひ安中道に屬し、磯部鑛泉場とは一帯水川を隔つるのみにして相對するを以て地勢氣候等に至るまで甚だ相似たり、此の鑛泉も磯部と同じく疾より發見せられしも村人等の浴するに過ぎざりしを去る明治廿二年四月同村萩原佐十郎といふ者始めて許可を得て今の浴場を開業するに至れりと

●横川停車場 (群馬縣上野國碓氷郡横川宿)

横川村 是松井田驛を發し新堀、五料を経て達するなり、碓氷川の流れに沿ひ、昔し看街樓あり之を横川の關所と稱へ、女免符、鳥銃の改ためありし所なり、偕此驛より以西輕井澤驛まで六哩七十五鎖の間は上野信濃の州界碓氷の峻嶺を貫ぬき以て東京直江津間の幹線を連續せしむる所の一大工事にして、此間の鐵道線は從來用ひ來りしものと異り、獨逸國ローマン、アプト氏の發明に係る齒狀軌方式を採用し工事二ヶ年に涉り、明治廿六年四月一月より開業したるものなり、此の新式鐵道を我邦に敷設せしは實に今回を以て嚆矢となす今其の線路の概畧を記さんに汽車は横川を離るゝや直ちに四十分一の傾斜を以て昇り同驛より一哩十二鎖六十鎖の所より齒狀軌の入口に達す、是れ即ち十五分一急勾配の起點なり、行くと十鎖餘にして霧積川煉瓦橋あり長さ百二十呎、河底より軌條面までの高さ凡そ四十呎許り三十六呎スパンのアーチ三個を有す、夫

より半哩餘にして第一號隧道あり此隧道を始めとして輕井澤までの間隧道の數都て二十六個、其の總延長は實に二哩六十一鎖の長きに達し五分一傾斜線の半ば以上は此の隧道を以て蔽はるゝ割合なれば一隧道を過ぐれば又一隧道を迎へ、深谷其間に交はりて殆んど顧視するに遑あらず就中最も長きは第六號隧道にして其長一千八百零三呎餘（我が凡そ三百間）而も左右に屈曲してS字形を爲し中央左壁に光線取の窓數個を有す、第五第六隧道の中間に碓氷川煉瓦橋あり長さ二百五十呎、河底より軌條面までの高さ九十呎許りにして四個のアーチあり其スパン各々六十呎、我邦未曾有の大穹なれども惜むらくは車窓より橋の側面を望み得ざるを以て旅客中には此の大工事を知らずして徒らに通過する者定めて多からん、此橋より一瞰すれば碓氷川の奔流は岩に激して飛沫雪の如く兩岸の絶壁は宛も刀を以て削りしに異ならず、南方に入山の峻峯を仰ぎ前後に第五第六隧道の洞門を望み溪深く水遙かにして身は唯だ空中を飛揚

するかの感を生せしむ茲より第七、第八、第九、第十の隧道を過ぎ横川より三哩半餘にして一の平地に達す即ち熊野平の汽車行合所なり此地は旅客乗降の用に充たる所にはあらず、唯だ列車の往復頻繁なる時に至らば此の平地に於て列車を行違はさしめ又機關車に水を供する場所と定めたるものなれば數條の副線及び二個の給水槽あり其の後山に熊野神社あるを以て字を熊野平とは稱するなるべし、熊野平を發車すれば直ちに第十號隧道に入り夫より第廿六號即ち最終隧道を潜り出るまでは青天を望み得べきところ通計僅かに半哩餘に過ぎず、甲隧道と乙隧道との間其の距離最も短かきは僅々二鎖（凡そ二十間）に満たざるものありて旅客は殆んど地下鐵道を通過するの思ひを爲すべし而して隧道と隧道との中間毎には必らず深さ數丈の溪谷横たはり是には悉く架橋の設けあれども此橋は皆煉瓦を以て積上げ二十四呎若くは卅六呎スパンのアーチ一個を備へしのみにて彼の箱根線橋梁の如く鐵桁を用ひしもの一として無ければ

旅客中には橋あるを信せざる者も多からん既にして第廿六號隧道を出れば輕井澤高原に達し眼界忽ち開けて右に淺間ヶ嶽を仰ぎ左りに蓼科の連峯を望むなと風景頗る快濶なり、此の六哩七十五鎖間の線路中稍や水平なる所は僅に兩端停車場近傍及び熊野平流車行合所の三ヶ所に過ぎずして齒狀軌を用ひたる急勾配線は五哩七鎖余、又曲線の最も急なるものは半徑十三鎖にして全線路を通じて曲線の箇所すべて二十二ヶ所一直線の處ろを通算すれば三哩五十餘鎖となるを以て其他の三哩二十餘鎖間は悉く曲線なり去れば隧道中にも随つて直線なるは稀にして屈曲せるもの最も多きが中に第六號隧道の如きは一は十三鎖、一は十五鎖の半徑を以て左右に屈曲し所謂のOVERTHROWを爲せしものなり今各隧道の延長を擧れば左の如し

番 號	呎	番 號	呎
第一號隧道	六一四・四五	第十四號隧道	七八五・四〇
第二號同	三七〇・九二	第十五號同	五六一・〇〇

第三號同	二四五・五二	第十六號同	八七〇・七〇
第四號同	三二八・九二	第十七號同	至七四・二〇
第五號同	七九九・〇六	第十八號同	二二六・〇〇
第六號同	一八〇三・一一	第十九號同	八三七・〇〇
第七號同	二四七・五〇	第二十號同	五九五・一〇
第八號同	三〇〇・三〇	第二十一號同	九三八・一八
第九號同	三三六・八〇	第二十二號同	一八四・八〇
第十號同	三三六・〇〇	第二十三號同	二八九・〇四
第十一號同	三五六・一三	第二十四號同	三二九・〇八
第十二號同	三六三・〇〇	第二十五號同	一〇六・九二
第十三號同	七六六・六六	第二十六號同	一四一九・〇〇
合計	一四六四四・二二	第二十七號同	八七〇・七〇
		第二十八號同	至七四・二〇
		第二十九號同	二二六・〇〇
		第三十號同	八三七・〇〇
		第三十一號同	五九五・一〇
		第三十二號同	九三八・一八
		第三十三號同	一八四・八〇
		第三十四號同	二八九・〇四
		第三十五號同	三二九・〇八
		第三十六號同	一〇六・九二
		第三十七號同	一四一九・〇〇

〇碓氷嶺 は鐵道の開通せられしより又舊道を行くの必要なかるべしと雖も此の山嶺は東海道の足柄山、箱根山と同じく東に入るの境にして且つ有名の峻嶺なれば其大概を記して案内に換ふべし、偕此山は昔しより上下三里(新道を開きしより四里許りになる)の時と云ひ來りしかと三

里には近かるべし、舊道は横川停車場より凡そ壹里許にして坂本驛に達し、此驛より山にかゝり漸次峻阪を登り十八町にして剝石坂といふあり其下に覗きの茶屋といふありて名物蕨團子を售る、屏風ヶ岩などを見て山中村を過ぎ行くと數町にして道の右手の山腹に稻荷の小祠あり、土臺の定め場所もなき山腹に、如何にして之を建たるやと怪まるゝほどなり漸やく絶頂に至れば熊野神社の祠あり、此處には民家數十戸ありて小市を爲す、蓋し碓氷の町なり市の中央右手の石階を登れば即ち熊野社にして、本殿拜殿神樂堂等何れも結構壯麗なり、境内には數多の末社あり、又少し東の方には仁王堂あり、(今は路傍に移して舊地に在らず)此より顧りみて東を望めば妙義山は近く、榛名赤城は遠く、武藏、下總、常陸、上野の諸山一目に集まり筑波山、日光山は殊に高く見え、淺間は獨り西南に聳えて煙を噴くを見る、又山中に芭蕉翁の碑あり「ひとつ脱でうしろにおひぬころもがへ」の一句を刻す、而して上野信濃の州界は此の絶

頂に在り、昔しは熊野神社の前に「信濃上野國境」の六字を書せし標杭あり今は群馬、長野兩縣の境となれり、往時日本武尊東征の時此の嶺を過らせたまひ、此處より辰巳の方を眺めて禰姫を戀ひ三たび嘆きて吾嬬者耶くと宣ひしに依り是より東の國を吾嬬と云ひならはしけると日本記に見えたり、今留夫山と呼ぶ所即ち其舊跡なりといふ、又碓氷荒太郎貞光も此の山中に生長して毒蛇を退治す、留夫山の東北表白山の大蛇跡は即ち其舊地なりと云ひ傳へ貞光の屋敷跡は表白山の美志の平に存す是より一里余りにして新輕井澤驛に達す、是れ長野縣に入りて始めての宿驛なり

霧積温泉 横川停車場より西北二里余の山道(阪本驛より碓氷嶺を四五町上り夫より右に曲る)を上れば霧積温泉場に到るを得べし、横川より温泉場までの人力車賃は一人曳三十五錢の定めなれども新道とは云へ其道は勾配稍や急にして且長く修繕を加へざれば凸凹定まりなく雨後は

殊に險惡を極むれば最初より二人曳を雇ふか又は徒歩する方宜しかる可し此地は海面を抜く事大約三千八百八十七尺、山林溪谷の間に位し、山には斧斤曾て入りし事なきを以て老樹鬱蒼として晝猶ほ暗く亦一點の山骨を見ず、春は藤花、躑躅其他百草錦繡を織り、夏は風輕く瀧津瀬の音涼し、秋は紅葉二月の花よりも紅に満山を染め、冬は氷林雪岳、一望銀山の趣ありて四時の眺望極めて可なり殊に霧積川の清流浴々として天樂を聴が如く、鏡ヶ淵の水潺湲として山容を照し飛瀑桂泉の多姿なる最も盛夏勝遊の地なり、泉質は鹽類泉にして其効能は婁麻質素、腸加答兒皮膚病、子宮病等に宜しく別して瘡傷、挫傷、火傷等には其効能著るしとて怪我人等の來り浴する者最も多し、旅館は長生館(佐藤虎清)錦楓閣(芝大助)溪香館(脇谷三郎)等にして何れも雅致あり

●輕井澤停車場 (長野縣信濃國北佐久郡輕井澤村)

○輕井澤驛 是横川より六哩七十五鎖間 アプト式鐵道に依りて此驛

に來るなり、即ち碓氷嶺の西、坂の中腹高原の内にありて四面皆山を遠らし遠くは淺間山萬丈の煙を望み、近くは突兀たる鎌戸岩、峨々たる離山に對し地層概して火石質なるが上に海面を抜くと實に四千尺に近きを以て空氣新鮮、飲水清良、乾燥宜しきを得たり、川あり雲場川と云ひ驛の中央を流る道遙遊息以て夏日の苦熱を忘るゝに足る此地東京を距る三十七里、高崎へ十二里、上田へ十二里、長野へ二十二里、諏訪へ十五里、而して諏訪を除くの外盡とく汽車の便あり驛中旅亭の名高きは龜屋、萬松軒にして宿料は一宿廿五錢以上、一ヶ月五圓以上、此地最も避暑に適するを以て明治十八年以來外人の往て暑を避る者三百有餘、之を比較するに其數内國人よりも多しといふ

淺間山 是有名なる活火山にして信州北佐久郡より上州吾妻郡に跨がり曲鼻山と並びて屹立せり、海面を抜くと八千二百八十二尺、其頂上に噴火坑ありて四時絶えず烟を噴出す、此煙平生朝より午時頃までは起た

す、大方午時過より起上るなり、山の半腹より上は草木生せず、半腹以下には雜草生茂り其中に落葉松(富士松の如し)柴草などを生ず、共に珍品として賞玩せらる、又嶺に巖窟あり其中に虚空藏の石佛を安置す、此山大焼する時は五里七里の間に灰を降らすとあり灰の中には焼石も交り麓の輕井澤、沓掛、追分等には先年降りたる焼石なりとて道の傍らに多くあり常の石よりは軽く色は灰色にして少し黒味あり、偕て此の山に登らんと欲せば追分驛よりすべし同驛より登り三里十五町餘にして一日に往復自在なれば、夏日此山に登りて奇を探るも妙ならん

●御代田停車場 (長野縣信濃國北佐久郡御代田村)

○御代田 は輕井澤を距る八哩の所に在り、追分町の西南半里餘、岩村田町との間に設けたる驛にして人口一千五百八十餘を有す、所謂追分町は東山、北陸二道の分るゝ所なるに依て名けしなり、而して追分町より西南に分るゝ一條の街道を東山道(所謂木曾街道なり)と稱し、

瀛車と共に西に向つて行く街道(越後、越中、加賀、越前を経て近江へ出で京都に入る)を北陸道といふ、御代田は即ち東山道に屬するなり、而して瀛車は此處にて東山道を横斷して西行するを以て停車場を追分に置かず、此地に置くの必要ありしならん

○岩村田町 は御代田停車場より西南壹里廿町、即ち木曾街道の一驛にして人口五千零十餘を有し、南佐久郡中小諸に亞ぐの市驛なり、此近傍一面に蠶業を勵み物産は蠶絲繭等なり、驛の入口に住吉の祠あり、又隣邑鹽灘(壹里半あり)との間駒形坂の岡山に駒形神社あり、其他名所舊跡の記すべきなし

●小諸停車場 (長野縣信濃國北佐久郡小諸町)

○小諸町 は北佐久郡中第一の繁昌地にして戸數二千五百餘、人口八千百七十餘を有し、蠶絲織物の物産に富む、市に小諸銀行(資本八萬圓)あり、鹽川倉庫會社あり、淺岳社は製絲に従事して八十八人取の器械を

有し、中牛馬會社は専ら運送業を營む、旅人宿は巴屋六左衛門、鶴屋佐平次等有名なり

●田中停車場 (長野縣信濃國小縣郡田中村)

○田中驛 是小縣郡に入り初めて宿驛にして戸數四百、人口千餘に過ぎず、近傍また記すべきの名所舊跡なし、是より松本へ十五里なれど三才山の難路を経ざれば行く能はず、故に上田に至り車馬の便を假りて行くの易きに如かず

●上田停車場 (長野縣信濃國小縣郡常入村地籍)

○上田町 是小縣郡中第一の市驛にして東西五町二十間、南北六町十間、町は常入、鷹匠、上下常田、海野、鍛冶、田町、馬町、柳町、木町、原田、紺屋、新參、鎌原、常盤城等廿七坊より成り、戸數五千餘、人口一萬八千九百二十餘を有す、神社佛閣の重なるは松平神社、諏訪泉神社、大宮神社、八幡社、伊勢神宮、大輪寺、海禪寺、呈蓮寺、本陽寺、月窓寺、願行寺、淨念

寺、向源寺等にして銀行には第四十九國立銀行(資本金廿萬圓)上田銀行(資本金十萬圓)小諸銀行支店、第六十三國立銀行支店、第四十國立銀行支店等あり、此地蠶絲業を以て當國に冠たり故に生糸繭商最も多く信陽館(柳町)伸張館(原町)等は生糸製造に従事して最も盛んなり、物産は上田綿、絹紬綿、改良白斜子其他蠶卵紙等其の多きに居り、蠶卵紙は隣邑鹽尻村に於て製造する者頗る多し、又演劇には常芝居あり其他興行物一として備はらざるなし旅店は菱屋清兵衛(原町)上村半左衛門(海野町)等最も名あり

上田城址 是町の南西に在り、今は其中に松平神社、學校、監獄等あり、此の城は昔し關ヶ原の役に眞田昌幸が築きて其子幸村と共に徳川勢を防ぎたる所なり、初め徳川秀忠軍を率ゐて小諸に止まり、眞田を討滅ほさんと先鋒を遣はし攻かゝりしかと眞田僅かの勢にて能く防ぎ、之を破る事能はざりしかば已を得ず世に役の行者越といふ山道を経て上り之

が爲め殿ひの期に遅れたりといふ此の一事を見ても實に眞田父子は世に傑れたる武士なりけり

○松本町 是上田町より西南十五里餘、東筑摩郡第一の市街にして東京より六十三里十六町九間半の所に在り、町の廣さ東西十一町五間、南北十九町三十間にして市坊四十三、戸數七千餘、人口二萬六千四百八十五を有す、曾て筑摩縣廳を置きし所なり、舊城内には長野裁判所支廳、中學校、監獄署等あり、市の東南隅長澤川の畔に天満宮の社と極樂寺あり、此地また蠶業を勉め其期節に向へば市人半ばは蠶飼に従事す、物産は絹織物、眞綿、篠卷綿、綿唐糸、足袋底、蠶卵紙等を最とす、銀行は第十四國立銀行(資本金十五萬圓)松本銀行(資本金十二萬五千圓)田中銀行支店等あり、新聞社には信府日報(北深志町)あり演劇其他興業物皆備はりて繁昌し旅人宿にては米屋久三郎、高島助一郎、福田重藏、川口元右衛門(以上東町)新田茂八郎(中町)等有名なり、是より東西三十町にして三才

山の麓に淺間温泉あり

淺間温泉 是上田停車場より十四里餘の所に在りて馬車又は人力車にて行くべし、人力車賃は一人曳一圓二十錢、凡そ八時間にして達す、最も道を保福寺峠の方に取れば二里餘近しと雖ども峠は車は通せず(其途中田澤沓掛等の温泉あり) 楮信州には温泉數多あるが中にも最も著明なるは此温泉及び諏訪温泉(上下諏訪に在り)とす、此の温泉古へは大養の御湯とも呼しとかや、湧出の由來は分明ならざれども淺間は元麻葉野と云ひ萬葉集に「くれなるの淺葉が野良に刈る草の束の間も吾念れめや」とあるは即ち此所なるべし、此地初めは今の上淺間一區のみなりしが寛保二年霖雨の時人家數十戸を押し流し、かば此の水害に罹りし者今の下淺間に移住して上下兩區に分れ近くは明治十三年全村悉く類焼せしなど幾多の變遷を経來りて終に今日の有様とはなれり、上淺間は戸數百五十戸、下淺間は同じく百十戸を有し、土地高燥にして空氣清涼なり、東北

に三才山の峻嶺を負ひ西南に田甫を見晴し一鉢の景色は田舎めきたれども熱間に慣れたる都人士の眼には最と珍らしき心地す、温泉は單純泉にして無色透明無臭無味、温度は九十五度より百二十度の間にありて其湯口は殆んど六十餘ヶ所御殿の湯、枇杷の湯、翁の湯、御座の湯、柳の湯、松の湯、竹の湯、紅葉の湯、櫻の湯、蕨の湯、菊の湯、桐の湯、玉の湯、寶の湯、錦の湯、鶴の湯、龜の湯、目の湯、臼の湯等枚舉に遑あらず

●阪城停車場 (長野縣信濃國埴科郡阪城村)

阪城村 は上田驛より六哩三十五鎮の所るに在る埴科郡中松代に亞で人口多き土地なり、人口は四千零八十餘、千曲川に沿ひ鐵道は其沿岸に架したり、是より一里餘にして隣邑戸倉に至る、千曲川を渡り西里許の所に聳えたる山嶺は姨捨山なり、又姨捨山の麓半里許りの八幡付に鎮坐する若宮八幡宮は當國の一の宮とて名高し、姨捨山に登る者は其の途中參詣するの便あり

姨捨山 は信州更級郡に在り、古來有名の勝區にして殊に田毎の月を以て名あり、此山は冠の北に在る小丘にして、一重山と相對し、東の方千曲川(此處にては更級川といふ)を隔て、埴科郡に鏡臺山を望み西の方猿ヶ番場嶺に連なる、姨捨山に大なる岩石あり、幅十間餘高さ三丈餘之を姨石といふ、上の平面なる所に二間四面の草堂あり、之を満月殿といふ、其石の傍らに桂の樹、煙石、小袋石、寶ヶ池等あり「おもかげや姨ひとりなく月の友」とあるは芭蕉の碑なり、又此に一の小刹あり放光院長樂寺(八幡村神宮寺の支院)といふ本尊は正觀世音なり、其の庫裡に月見堂と書したる扁額を懸く、室四個ばかりあり椽に欄干を設け觀月の便に供す、其下より山の裾野まで斜めに數町の水田あり、毎年中秋には月滿て銀地に踊り、田毎に其影を映すとて偕こそ田毎の月とは名けたり、殊に其月鏡臺山の絶頂に昇りて宛かも明鏡を懸たるが如くに見ゆる時を以て第一の奇觀と爲す、此の夜は月を賞せんとして遠近より爰に集

まるもの群を爲し、姨石の上下近傍月見堂の如きは人を以て埋め、行厨を開き瓢を到して愉快を買ふなどは観花の時に異ならず、此地邑名を更級と云ひ人口三千六百あり故に更級の田毎の月ともいふ、東京にて更級の蕎麥を珍重するは此邊蕎麥の名産あればなり、此處の寺に更級の月を賞する縁起あり、大むかし地神三代の尊の御后を木花開姫と申し、其御父は大山祇命にして此の姨姫を大山姫といふ、すがた醜くして心ばせも荒々しく、他のよき事を妬み愁ひを見ては悦び四十を過るまでも誰迎ふる人もなし、此故に甥の命あるは姪の開姫なと申合せ、嫉妬の心おはしますゆゑ、諸人思みて誰迎ふる人もなし、今より御心すなほにならせ給へどかきくとき、いとねんころに諫めたまへば、姨姫如何して素直にならしめんやと宣ふに、此時さくや姫、是より北の國に更級といふ所あり爰の月を詠め給はゞ御心すなほになり給はんと教へ給ひけるに姨姫去らばとて開姫もる共に勇み喜びかずくの峯を打越えやうく彼の高根

に至りたまふ、爰にて姪姫は此山のあなたに磐石（即ち姨石なり）あり是に登り給ひて御心おたやかに四方を詠めたまへば御心清らかななる可しと教へたまふ、姨姫旅の疲れにや御身も弱り暫し秋の月を詠め給ふに柔和の御心おのづから生じ、忽ち大悟ましくて姪姫に向ひ吾は永く此嶺に住んで諏訪の健御名刀命と共に此國を守らんとて今こそ天に登ると宣ひて月の都に入り給ふ、姪姫嬉しく思召し姨姫此山に捨させられ給ひけるを御跡を拜し給ふ、夫より此山を姨捨山と云ひならはせり云々、又顯昭袖中村に曰ふ、とし頃母のやうに養なひたてたる姨を、妻のいふに付て、甥の男の月あがりける夜ゐて登りて更級山に捨たりけるより姨捨山といふ云々、其他俊頼無名抄、大和物語等に記したるも是と大同小異なり、又ある人の説に、姨捨山の西に麻績（東筑摩郡にある姨捨山を距る僅かに里許）といふ村あり此の近傍は昔より麻を産するを以て麻の業を此山に捨たるより麻葉捨山と名起れり云々、何れが信なるや知るべか

らず姑く後考を俟つ

宗良親王誓塚 戸倉字下戸倉より三町ばかり柏尾村に在り、信濃宮

誓塚と誌せし標識を建てたり、信濃宮とは後醍醐帝の皇子宗良親王の御事なり、一町ばかり入て碑あり、表に和歌二首と親王の傳を刻したり其歌は、姨捨山ほど近く住侍りし頃夜ふくるまで月を觀て思ひつゞけ侍りし「是にます都のさとはなきものをいさよと云はまし姨捨の月」「君のため世の爲めなどか惜からん棄て、甲斐ある命なりせば、」其碑の傍に苔蒸す石塔婆の舊きありて之を親王の誓塚と云へり、去れど日本史に親王の事を記して遂入長谷寺爲僧、尋往信濃とあり其他親王の事を記するもの信濃に往きて僧となりし如く記せしものなければ此地に誓塚のあるべきやうなし、是は多分後世人の虚構なるべしといふ

●屋代停車場 (長野縣信濃國埴科郡小島村地籍)

○屋代町 是埴科郡中第二の市驛にして千曲川の南岸に在り人口三千

六百三十余を有す、是より千曲川の鐵橋を渡り三哩二十鎖にして篠ノ井停車場に達す

○松代町 是舊幸田信濃守(十萬石)の城下にして埴科郡中第一の繁昌地なり、屋代町より兩宮、岩野等を得て東北壹里廿町許の所に在り、戸數二千餘、人口七千五百四十餘を有し、物産は生糸織物等なり、第六十三國立銀行其他蠶糸に關する諸會社夥多あり、製糸最も盛んにして其期節に及べば市民半ばは之に従事す、又有名なる佐久間象山は此地より出たる人にて其の宅趾あり

●篠の井停車場 (長野縣信濃國更級郡布施高田村地籍)

○篠の井町 是更級郡に入つて始めての宿驛なり、人口一千五百八十五を有す、停車場は篠井町を過ぎ字布施に在り、是より途中川中島の古跡を過ぎ犀川の鐵橋を渡り、五哩五十鎖にして長野町に達す
犀川 是源を駒ヶ嶽に發し筑摩、安曇、更級、水内の界を経て長野近

傍に來り、千曲川(むかしは千隈、知具麻とも書せり)と合して都て筑摩川と云ひ、越後に入りては信濃川といふなり

●長野停車場 (長野縣信濃國上水内郡中御所村)

○長野町 は信濃第一の都會にして東西九町餘、南北十六町五十間、市坊十八、戸數七千餘、人口二萬六千八百三十四を以て成る、停車場を降りて左手に赴けば直ちに町に出づ、新田町より諏訪町、權堂町、大門町、元善町等を経て善光寺に達すべし、此地昔しより大名の城下と云ふにあらず交通便利の土地と云ふにもあらず、其地勢より云へば實に山間の僻隅に位し、不便至極の土地なるに拘はらず信濃隨一の繁昌を極むるに至りたるは唯一の善光寺あるに依るのみ、善光寺は初め伊奈郡座光寺村(今の元善光寺村)に在りしを孝極天皇の御宇今の地に移せしなり故に今猶ほ伊奈郡の舊地にも善光寺如來ありといふ、此地商業盛んならざるにあらず然れども他の地方と異なり蠶糸業に従事する者は甚だ稀にして

物産は麻布、蚊帳、疊表などに過ぎず市人の七分は善光寺詣りの旅客を便りに活計を立つる者なれば旅人宿割合に多し、大門通りの如きは旅店櫛比して東京の馬喰町に異ならず、市人の三分は旅人宿を爲すといふも可なり、長野縣廳は大門通りより入りて西に在り、師範學校之を隣り、製糸場監獄署は其前に在り、又裁判所は善光寺の西の外れに在り、大林區署、議事堂等は監獄署の裏手の廣場に在り、善光寺境内を公園と爲し其の裏に博物館あり、測候所あり病院あり又俱樂部あり、神社佛閣にては城山社、寛慶寺、明行寺、禪松寺、裁松院等其重なるものなり、銀行は信濃銀行(資本金五十萬圓)長野銀行(資本金拾萬圓)長野貯藏銀行(資本金一萬圓)長野貯金銀行(資本金二萬五千圓)田中銀行、第十九國立銀行支店等あり、會社は長野魚商會社、長野商社、長野物産會社、製絲場、中牛馬會社等、又新聞社は信濃毎日新聞、信濃實業新聞の二つあり、旅店にて重なるもの二三を擧れば長野ホテル及對旭館(本店大門町、支店停車場)

塙前(五明館(同上)花房屋新之助(權堂町)山屋善兵衛(大門町)又當地より遠近名邑への里程は左の如し

飯山へ七里三十五町〇須坂へ三里十九町〇松代へ三里〇上田へ十里五

町〇小諸へ十五里

善光寺 は二重八棟づくりの大伽藍にして間口三十間、奥行五十間、屋根は檜肌葺にて結構輪奐壯嚴を極む、二王門の側らに大本願の坊あり此坊の住職は元大炊御門氏の女なりしが伏見宮の御養ひにて此の寺に入らせられ尼君にならせ給ひ、參詣人に血脈を授けらる人呼で尼宮様といふ、二王門を入れれば敷石あり五六歩にして一階づゝ次第に上り凡そ二町許りを行きて左手に大勸進あり是れ當山別當の居所にして亦結構壯麗なり、是より又一町許にして山門を入る此間商店簷を連ぬると東京淺草寺の仲店に似たり、山門より半町許りにして本堂に達す、前堂後堂あり猶ほ拜殿奥の院といふがごとし全國より此地に来る參詣者は日々幾百人と

いふを知らず、然れども參詣者は老人八分、壯者は二分に過ぎずといふ堂下に阿彌陀の胎内くゞりといふ所あり、堂の横手に廻れば入るを得べし、入口は堂の側面に在り之を入れれば暗黒にして咫尺を辨せず、所謂胎内なるものは床下を穿ちて穴となし(恰好本尊の下なるべし)其中に極樂の鏡なるものを置き之を探り當たるものは極樂へ行かれると云へり其愚笑おべきなり、抑も此寺の縁起を見るに往昔物部の大連佛法を嫌ひ此の尊像(閻浮陀金なりと)を難波堀江に棄沈めたるを本多善光といふ者取揚げて自ら此國に背負來り伽藍を建て納め入れたる由を記せり、正史に據て見るに難波の堀江より佛像を取揚げし事欽明天皇の十三年と、敏達天皇の十四年と再びあり善光が取揚たるは其中何れなるか判然せず、幕府の寺社奉行なりし脇坂安宅曾て其扉を開きて本尊を實見したるに佛像四個あり、其中の一個は釋迦の金銅の像にて背に百濟王の奉りしよし彫つてたり、難波堀江より取揚たる佛像は元來二個あれど當山の本尊は一

塲前(五明館(同上)花房屋新之助(權堂町)山屋善兵衛(大門町)又當地より遠近名邑への里程は左の如し

飯山へ七里三十五町〇須坂へ三里十九町〇松代へ三里〇上田へ十里五町〇小諸へ十五里

善光寺 是二重八棟づくりの大伽藍にして間口三十間、奥行五十間、屋根は檜肌葺にて結構輪奐壯嚴を極む、二王門の側らに大本願の坊あり此坊の住職は元大炊御門氏の女なりしが伏見宮の御養ひにて此の寺に入らせられ尼君にならせ給ひ、參詣人に血脈を授けらる人呼で尼宮様といふ、二王門を入れれば敷石あり五六歩にして一階づゝ次第に上り凡そ二町許りを行きて左手に大勸進あり是れ當山別當の居所にして亦結構壯麗なり、是より又一町許にして山門を入る此間商店簷を連ぬると東京淺草寺の仲店に似たり、山門より半町許りにして本堂に達す、前堂後堂あり猶ほ拜殿奥の院といふがごとし全國より此地に来る參詣者は日々幾百人と

いふを知らず、然れども參詣者は老人八分、壯者は二分に過ぎずといふ堂下に阿彌陀の胎内くゞりといふ所あり、堂の横手に廻れば入るを得べし、入口は堂の側面に在り之を入れれば暗黒にして咫尺を辨せず、所謂胎内なるものは床下を穿ちて穴となし(恰好本尊の下なるべし)其中に極樂の鏡なるものを置き之を探り當たるものは極樂へ行かれると云へり其愚笑ふべきなり、抑も此寺の縁起を見るに往昔物部の大連佛法を嫌ひ此の尊像(閻浮陀金なりと)を難波堀江に棄沈めたるを本多善光といふ者取揚げて自ら此國に背負來り伽藍を建て納め入れたる由を記せり、正史に據て見るに難波の堀江より佛像を取揚げし事欽明天皇の十三年と、敏達天皇の十四年と再びあり善光が取揚たるは其中何れなるか判然せず、幕府の寺社奉行なりし脇坂安宅曾て其扉を開きて本尊を實見したるに佛像四個あり、其中の一個は釋迦の金銅の像にて背に百濟王の奉りしよし彫つげたり、難波堀江より取揚たる佛像は元來二個あれど當山の本尊は一

個なると勿論なるに斯く四個もあるは怪しき限りなり、去れど欽明敏達
の朝に在りて本多と云ひ善光と云ひ姓名のあるべき謂れなければ其縁起
は造り物にて其實百濟王の奉りしものならんとの事を善光寺正實記に記
せり、然れども世の神社佛閣の縁起なる者多くは取どめなきものゆゑ獨
り善光寺のみを咎むるは非なり

川中島古戰場

は犀川の沿岸に在り今丹波島といふ所る是なり、長野

町と僅かに犀川を隔つるのみ、篠の井より長野に至る途中汽車の内より
右手に當りて之を瞰むるを得べし、武田信玄上杉謙信兩雄の古戰場たる
事三歳兒も知るところなれば改めて説かず

戸隠山

は長野町の西北四里三十町の所に在り、山は屹然として東に

聳え西、越中の列岳と奇を争ふ、北に妙高山を扣へ中に安曇郡を帶て迥
かに望めば其の形基石を敷きたるが如し、長野より二人曳人力車賃片道
凡そ壹圓五拾錢にして山下に達し荒安といふ所より一里登り入坂を越え

又里許にして飯綱原を過ぎなば戸隠山の鳥居に着すべし、此華表を入り
行くと五十三町にして中院権現あり、祭神は思兼命にして秋葉、諏訪
等の末社多くあり、又一の鳥居より廿八丁目(一丁毎に石標あり)大久保
村の分れ目に榜示の石標あり此所より男鹿澤の橋を渡り、又岐れ道あり
右は権現道、左は鬼無里道とあり、権現道の方に赴かば寶光院権現に至
るべし、寶光院権現の祭神は表春命といふ、茲にも地藏堂、神明宮、
荒神の祠、神樂殿等あり本社は數十段の石階を登りし上に在り、是より
中院本社の右手に添ひ登ると三十町にして奥の院に達す、奥の院の祭神
は手力雄尊なり、本社の右に並びて九頭龍権現あり、岩窟に據て社殿を
建つ、何れも結構輪煥たり、至山突兀奇石怪岩を以て成り、劍の峯、水
晶の鳥居、八尺の圓鏡岩、兩部の大日、射拔岩、屏風岩、鬼の釜など枚
擧に遑あらず、又奥の院には三十三の岩窟ありて奇態云ふべからず、山
に登れば空氣清涼にして風軽く盛夏の候といへども肌に粟を生ず、就中

奥の院は寒氣激烈にして冬期は雪深く、十二の坊ありと雖も常住する能はず何れも空舎となり居れり、故に毎年一月別當奥の院へ參詣の時は手輿に乗り人夫に曳しむるに人夫は鳥居の上を行くといふ（鳥居高さ二丈）以て雪の深きを知る可し、傳へ云ふ九頭龍權現は神形九頭にして岩窟の裡に在り、梨を以て神供と爲す、毎夜丑の刻未だ春かざる米三升を備ふ云々（和漢三才圖繪に見ゆ）維新の間まで此例あり官軍の兵士之を聞きて奇となし試みに丑の刻に至り彼の供米を持行きて岩窟に供へ密かに窺ひ居たるに怪しむべし須臾して之を食ふの音聞えければ二三の兵士小銃の筒口を揃へ岩窟に向つて一發轟然と打放ち直ちに至り見れば年經たる一疋の老猿彈丸に中りて死し居たり、依て古來の冥夢を晴らせしとなり、祭日は春季祭例五月十四日より十六日まで、秋季祭例八月十四日より十六日までにして參詣人頗ぶる多し、昔しは四月及び七月なりしが開曆以來一ヶ月づゝ繰下げたるなり、此山極めて避暑に妙なるを以て夏期

に至れば登山する者多し、山上には舊社家二十餘軒もありて何れも旅舎を營なし其室清潔美麗にして貴顯紳士の滞在するも差支へなかるべし

●豊野停車場（長野縣信濃國下水内郡豊野村）

○豊野驛 は長野町より六哩六十八鎖の所に在り、本街道の平出より東に入ると凡そ廿町許り、鐵道開通以來新開の土地にして一の山村に過ぎず、是より湯田中温泉及び澁温泉を案内すべし

湯田中温泉 は豊野停車場を距る僅かに四里、下高井郡平隠村に在り中野町よりは一里餘に過ぎず、前に星川の清流を望み後に湯平の小丘を負ひ、東は山岳重疊し、西北は稍や廣濶にして遠く越の妙光、黒姫、飯綱等を望めり土地は高燥にして海面を抜くと二千八百尺、盛夏と雖も寒暖計八三四度の上に昇る事なければ避暑には最も適當の地といふべし、此温泉は天智天皇の御宇僧知由なる者の發見に係ると云へば温泉中の古株なり其中の總湯は市の上端に在り浴室は明治十八年の新築にして

浴槽を四個に區てり、總湯の外鶴、鷺、綿、千代、脚氣、瀧、河原の諸湯あり浴室は皆な總湯と同じく明治十八年に修繕改築せり、又此鑛泉は甲乙二源泉の交混にして各其成分を異にす、各浴舎は何れも其混合せしものを浴槽に引入れ温度は華氏百六十三度ありと雖も浴槽温度は百度より百二十度の自在を得るなり、其効能は慢性癩麻質私、慢性痛風、婦人生殖器諸病、貧血、慢性皮膚病、脚氣、胃弱、肺病、梅毒、子宮諸病等に宜しく、外用服用ともに効あり、浴客の爲めに設けたる遊園地は湯平の丘上に在り市の中央より望み紫回曲折、松杉の間を攀り漸やく丘上稍や平坦なる所に出れば一望十里、麥浪黄菜の間茅舎兩三點を隔て遙かに月隱の險峯、飛驒の諸山を雲烟縹糊の間に認め一帶の千曲川は遠く流れて霞に消え川中島の平原、善光寺の巨刹歴々指點すべし園後に松濤庵あり游客の休息に充つ、偕て東京より此地に遊ばんと欲する者上野發一番列車に乗らば午後一時には豊野停車場に着すべし、停車場前には當

地と温泉場間の往復馬車の席を暖めて待つあり、馬車賃は一人前二十八錢にして一輦輕く馬首を束すれば四時には慥かに温泉場に着すべし又人力車に乗らば一人曳賃金三十八錢なり、道は長野より前橋に達するの縣道なれば數年來漸々修理を加へて車馬動搖するの憂ひなし、市の中央大湯の近傍は悉く旅舎にして各々數十の客室を備へ以て浴客を待つ、魚類は越後直江津より日々數回瀛車にて輸送するを以て極めて清鮮なり、市内に郵便局、和洋酒店、寫眞舖等あり電信は當地を距る里余の中野町に在れば通信の不便なし、又重なる旅舎は左の如し(△印を附したるものは内湯ある符合なり)

- | | |
|-------------|------------|
| △見崎屋 官崎善左衛門 | 中見崎屋 長島龜之助 |
| 關屋 湯本 喜一 | 萬屋 小野 かざ |
| 小榎屋 山本 勇三郎 | 中屋 柄澤 兼吉 |
| 長壽屋 官崎善右衛門 | △ 湯本 五郎治 |
| | 殿屋 熊井九左衛門 |
| | 大和屋 田中 とせ |
| | 島屋 湯本 寅助 |
- 當温泉は概ね旅客の自炊に任せ旅舎より仕出を爲すが如きは甚だ稀なり

而して薪炊、洒掃の勞を取る湯女あり一日二錢を投ずれば親切に其の勞
を取るべし、座敷料は一人一日分三錢、旅籠料は上等（晝賄付）五十錢
中等（全）四十錢、なみ（全）二十八錢にて別に夜具代あり上等絹夜具一日
金十二錢、並上等同五錢五厘、中等同四錢五厘、下等同三錢五厘なり、
又近傍の名勝一二を記せば左の如し

星川 是源を大沼に發し西流して角間川を合せ柳澤に至りて千曲川に
入る急流奔湍、玉を碎き雪を飛す、山目鯀魚等を産す、初秋魚肥るの頃
楊柳の下に踞して綸を垂るも亦行樂の一なり、此川河鹿を以て名あり弦
月西山に沈み織婦も楮を投じて衾に入る頃閑々の聲水邊に起り孤客をし
て轉た望郷想に堪へざらしむるものあり晚春殊に多し

琵琶池と閑滿瀑布

温泉場を距ると東南里餘、上州草津温泉に達する
山道の傍らに琵琶池あり兩山の間にか在し瑠璃一碧洋々として萬頃の水
を湛お若し夫れ一葉の小舟楫歌を吟じて池面に出づれば左右の青山倒影

脚下に在り回漕數番腕力を鍛練するも又深泉中の一興ならん、湖畔に閑
滿瀧あり懸下三十六丈餘、遠く之を望めば飛泉素紘を懸け珠玉迸しつて
潜龍躍り盛夏猶ほ粟を生ず四邊の紅葉蜀錦り張り般々水に映じて燦々然
たり象山佐久間先生此瀧を愛し常に吟鞍を寄せ名けて雲錦と云ふ

象山先生の碑

佐久間先生夙に大志を懷き此地に遊び謳つて曰く天下
の大勢掌上に歸す知らず身は小樓の中に在りと素願いまだ半ばならざ
るに非命に斃る佐野村（湯田中を去る南方四五丁）の人之を悲しみ碑を建
て先生の功績を表す銘は海舟勝伯の撰なり此地は後るに笠岳の高嶺を負
ひ前に星川の流れを帯び遠く之を望めば泰然として先生の威風を懷ひ就
て之を視れば愁然として先生の不遇を悲しむに足る然れども先覺の志氣
凛乎として萬世に傳ふ嗚乎翁の威風は高く水長しといふ可し

澁温泉

は湯田中を距る十餘町、豊野停車場より四里廿町、同じく高
井郡に在り、停車場より馬車賃金三十錢、人力車一人曳金四十五錢の定

めなり、東京より一日の路程とし北越より半日の途次とす、地勢は四山
 蒼翠の絶勝長流奔激の奇觀人をして神心を快ならしむ少く山上に攀れ
 ば川中島一帶遙かに素練を回らし、戸隠、妙高、飯綱の諸山遠く天際に聳
 ゆ、此地海面を抜くと一千六百四十三尺氣候は大暑と雖とも八十五六度
 に過ぎず朝夕は七十度より七十二三度を昇降す嚴寒と雖とも四十度内外
 なり故に宛も冬夏なきが如く避暑防寒の地に適し殊に養病の土に宜し是
 を以て衛生を務むるの客清遊を好むの士毎夏來りて心神を養ふを常とす
 儲當温泉は神龜年間僧行基の發見し草廬を營み自ら薬師の佛像を刻み泉
 側に安置す今の薬師堂是なり、泉質は普通の鹽類泉にして外觀は微か
 り白濁を帶ふ又其効能は慢性癱瘓質私、慢性痛風、慢性肋膜炎、子宮病、
 婦人生殖器の諸病、癩癧、皮膚病、梅毒其他に宜しく外用内用ともに効
 あり、入浴期は例年四月より九月に至るの六ヶ月間を以て最良とす、當
 温泉も亦自炊は浴客の隨意にして湯田中と異ならず旅籠料は一日三食に

して金廿八錢より金四十錢まで、自炊なれば夜具食料薪炭料を合せ一人
 一週間壹圓より壹圓五十錢にて辨すべし、又温泉宿の重なるは左の如し

菱屋 寅吉	山本喜藏拾	大和屋 吉郎治	湯本喜四郎
角屋利左衛門	丸屋 萬藏	金具屋 平四郎	津幡屋忠右衛門
松坂屋彌五兵衛	穀屋市左衛門	松屋 榮八	本屋 恒三

又浴後運動の地を案内すれば左の如し、但し琵琶池、閑滿瀑布等は此地
 よりも程遠からず

神明山 本宮に登るの間は櫻桃兩傍に在るを以て其期節に至れば遊人
 雲の如くに集まり社地は最も眺望に富めり○地獄谷 是は鑛泉地上より噴
 騰すると三丈餘天川の上流にして傍らに浴室あり、郭公紅葉などに名あ
 り○温泉寺 老樹蒼蒼として境内に清泉あり舊跡あり堂中の涼味盛夏を
 愈るべし○和合橋 俯して清流を聽き仰いで銀河を望む橋上の夾氣午熱
 を洗ふに足る橋畔初井の清水あり○太古岳 岩上錐立し俗に針の山とい

お岩下に地獄の名ある故なり巖上松樹多く松茸を産す○天川神社 大樹
森々として林中の清夾たる盛夏なほ冷を覺ゆ境内清水あり道泉といふ
●奉禮停車場 (長野縣信濃國上水内郡豐野村)

奉禮は豐野停車場より四哩七十鎖の所に在り、元來北國街道の一驛な
りしも其土地甚だ盛んならず近傍また記すべきの名勝なし

●柏原停車場 (長野縣信濃國上水内郡柏原村)

柏原も亦北國街道中の一驛なり、戸數五百餘、人口一千九百九十餘あり奉
禮に比しては稍や繁昌の地なり、是より三十四五町にして野尻町に至る
芙蓉湖 野尻町の右の方に一の小湖あり周回三里三十町餘、東西壹里

十町、南北壹里三町、初めは土地の名を呼びて唯だ野尻の湖と云ひしか
其傍りに富士山の形したる山聳ゆるを以て詩人などは芙蓉湖と呼び、今
は一般に其名を呼ぶに至れり湖の中に島ありてこゝに辨財天を祀れり風
景頗ぶる佳なり

關川 是信濃越後の州界にして越後中頸城郡に屬し、野尻町より二十
六七町の處ろに在り、州界を流る、關川は初め瀧倉川と稱へしを元祿の
比越後の元の城主松平豐後守光長關を川の邊りに置たりしより所ろの名
となり又川の名も變れるなり、汽車は此川の鐵橋を渡りて行く

苗名の瀑 關川より壹里許り西に入り、杉の澤村に在り此瀑は關川の
源にして高さ凡そ十丈、幅五間許りもありて水聲四方に響き凄まじな
んといふ許りなし之を一の瀧といふ、是より上流十八町を隔てて二の瀧
あり其大いさ一の瀧に譲らず、同所に三の瀧四の瀧まであり此の二つは
一二の如く直下するにあらず數段になりて下るものなれども水勢烈しく
岩石に激して飛沫霧をなし其狀頗る壯觀なり (其源は妙高山茶臼山火打
山等の溪間高谷池に發す)

關川温泉 是關川村より壹里十八町、杉の澤村の近傍妙高山の麓より
湧出す、明治二年始めて發見し浴室を設けたりしに疥癬、梅毒、打撲な

とに効能ありとて患者の來り浴する者漸やく増加し、今は浴室七八戸も
ありて浴客絶ゆる事なく追々繁盛に赴くの傾きあり、此地最も避暑に適
せりと云ふ

●田口停車場 (新潟縣越後國中頸城郡田口新田村)

田口は元の北國街道より東四五町を入る一の寒村に過ぎずして柏原停車
場より五哩廿七鎖の所に在り、茲より西僅か壹里餘にして左記の赤倉
温泉場に達すべし

赤倉温泉 東京より行程七十三里、上野發午前六時の瀧車に乗らば其
日の午後四時頃には温泉場に達すべし、停車場より赤倉までの新道は能
く車を通じ上り一人曳の賃金は十七錢より二十錢までの間なれども近道
を歩けば其時間は左のみ一人曳の徐々と登り行く者と變らず、赤倉に至
ればコケヲ藁の浴舎軒を並べ一見して新開の温泉場たるを知るに足る此
地は背後に名高き妙高山を負ひ其右に在るを鉦山、左に在るを黒姫山と

云ひ鑛泉は其山麓赤倉山の岩石の間より湧出するものを取り樋にて内湯
に導くものなり、北には迥かに直江津の海を隔て、正面に佐渡ヶ島の海
中に浮び出たるが如き様を望み、其右には米山の時長く巒峰と連なれる
を認め沖行く白帆は浪に浮べる千鳥かと疑がはれ軌道を走る瀧車は畦を
傳ふ蟬蛸かと怪しまる、此等の景色は樓上樓下何處よりも望み得べきが
中にも香嶽樓にては浴場の硝子障子を隔て、浴を取りつゝ自在に眺望し
得らるゝなり、温泉宿は香嶽樓事島田平八郎を第一等とし、村越屋事村
越忠次郎、高田屋事茂原市三郎の二戸之に亞ぎ、此外南部屋、今町屋、藤
屋、豆腐屋、和泉屋、新屋、大代屋、清水屋、松屋、岩井屋等あり、今香嶽
樓宿料定價を見るに一日廿五錢以上五六十錢までにして一飯は八錢の定
めなれば他の繁華なる温泉場に較ぶれば其價低廉といふて可なり

●關山停車場 (新潟縣越後國中頸城郡關山村)

關山は停車場を降り左方に在る宿驛にして田口を距る四哩三十三鎖、關

川の岸に沿ひ北國街道の一驛なり、戸數四百八十餘、人口二千八百四十八、是より稻荷山、福崎、片貝、市屋、松崎、藤澤、小出雲の諸村を左りに見て進行し、片貝川の鐵橋を渡りて直ちに新井停車場に達す、此の汽車進行中に藤澤村の右の方に城太郎の嶺、半額刀自が作りしといふ鳥坂の城跡見ゆ、此の外近傍に見るべきの名勝なし、唯だ三ヶ所の温泉あるのみ左に其一を掲ぐ

關山温泉 是關山停車場より西三里に在り、浴場四つあり曰く總湯、曰く沸湯、共に脾胃虛、疝瘕等に効あり、曰く川原湯、金創、火傷、諸瘡、五痔等に宜し、曰く綿の湯、中風鬱滯等に適す、泉質は何れも硫酸を混じ其味頗る鹹し地勢は西北に茶臼山、妙高山等の峻嶺崎つを以て空氣清涼にして乾濕其の度に適し最も避暑に妙なり、浴舎十數戸あり關山よりは道平坦にして車馬の便あり此地に遊ぶ者一浴を試みて可なり

●新井停車場 (新潟縣越後國中頸城郡新井村)

新井は山中の一驛なれど東本願寺の別院などありて可なりに賑へり、戸數七百二十餘、人口二千九百十四あり、是より北國街道の田中を横ぎり六哩二十一鎖にして高田停車場に達す、又是より東北里三餘達野近傍には草生水の湧出する所あり、更に一里餘倉下村に至れば火の出る井あり共に是れ越後七不思議の一なり、其の理由は新潟市の部に記すべし

●高田停車場 (新潟縣越後國中頸城郡高田表寺町)

○高田町 是元徳川家四天王の一人榊原式部大輔の城下にして新瀉に亞で繁昌の地なり、戸數七千餘、人口二萬〇三百四十餘、市街は東北に關川の流れを帯び、東西二十餘町、南北一里十町にして市坊の數壹百に滿つ、停車場を降りて直ちに右方に入れば寺町に出づべし、此處にて重なる寺院は東本願寺、淨興寺、常教寺、善導寺、稱念寺、長恩寺、惣持寺、孝嚴寺、善光寺、本誓寺等にして瑞泉寺、正輪寺、乘國寺等は市街の南方に、眞慶寺は北方に在り、市中の最も繁昌なるは吳服町、上小町、中小町、下

小町、田端町、春日町、上紺屋町、職人町等にして稻町は關川を踰りて對岸に在り、銀行諸會社にては第百二十九國立銀行（資本金二十五萬圓）吳服町に在り、信越土木會社（資本金五萬圓）上職人町に在り、高田新聞は中寺區に在りて社運益々隆盛なり物産は越後縮、葛粉、粟の水飴等あり、旅館は三館一郎次（上職人町）茨木屋佐兵衛（下小町）坪屋太左衛門（下小町）等名あり

謙信の軍扇 壽永寺の塔頭寶持院に上杉謙信の軍扇といふものあり、面五寸餘、日と梵字とを畫かき、柄一尺五六寸あり、元祿の比榊原氏新たに箱を造らせて其由を金字にて記し納めたり、信玄の軍扇は世に名高ければ謙信の軍扇はいと珍らし

●直江津停車場（新潟縣越後國中頸城郡至徳寺村）

○直江津町 是高田を距る四哩廿四鎖、中頸城郡の北方海岸に面し關川の西畔に位す、此地初めは今町と稱へ北國街道中の一驛に過ぎずして

今より十年前を顧みれば人口五千餘に過ぎざりしが曩に此地を以て新潟と同く當國の要津とし次で汽車の開通せられしより日に繁昌し戸數三千、人口壹萬零百二十餘に及び實に中頸城郡中高田に亞ぐの都會となり其港灣には常に机檣林立し新潟、柏崎等より商船の來往日に幾十艘なるを知らず、殊に目下は此處を以て北越鐵道の最終停車場となすを以て貨物の集散、旅客の往來北越第一とすべし、銀行は第百二十九國立銀行の支店あり、廻船問屋及び旅店の重なる者を擧ぐれば左の如し

- 田正増五郎 古川長四郎 石原平右衛門 尾澤仁平 清水屋仙造
- 西澤宗五郎 野崎紋造 金井定吉 小林金治 (以上廻船問屋)
- 松葉館 古川屋源七 直溪館 (以上旅店)

春日山城址 是直江津の東南半里許りの所るに在り、此城は素上杉應顯の子憲榮の築きしものにて家人等の住みし所も諸所に其跡を止めたり憲榮の末房能なる者長尾爲景に弑せられしかど、爲景の子景虎天文廿三

年に上杉憲政の養子となりて上杉を冒せしより其勢ひ北國に振ひたり、尋で甥の景勝家を繼ぎ慶長三年に陸奥の會津に移りしより空城となりて荒果たりとぞ、今は城趾に鑛泉場あり

國分寺 直江津より關川の一帶を隔て、鹽屋新田といふ所に、彼の聖武帝の置れしといふ國分寺の跡あり、今も其遺跡に五重の塔の建つを見る

編者曰く、鐵道線路の及ぶところ即ち直江津までの案内は了りたれども猶ほ直江津以北には越後隨一の繁昌地にして日本五港の一たる新潟市のあるあれば旅客の便利を謀りて左に其案内を記す可し

○新潟市 是直江津より北の方三十里九町、西蒲原郡の北隅に在り北は海に面し、東は信濃川の流れて海に入る所に接し、西は長門の赤間關より、北は渡島の箱館よりの航船あり、西の方遙かに管下佐渡の孤島を青波渺茫の間に認む、市街の廣袤東西十三町、南北二十八町にして市坊二百五十一、戸數一萬二千餘、人口四萬六千五百二十七を有す、縣

廳は西中通りと東中通りの間に在り、裁判所、郵便電信局、市役所、警察署等は皆な西堀通りに在り、監獄は市の西方の外れに公園地は西南信濃川の沿岸に在りて此の中に白山神社の祠あり、又税關は市の東北信濃川の末流に沿ふてあり、税關に對して萬代島、柳島、小柳島等信濃川の中に散在す、其他招魂場、醫學館、病院等市内に在り、神社佛閣の重なる者を舉れば神明社、琴平社、白山神社、中教院、正福寺、不動院、法音院、起願院、本明寺、淨光寺、寶龜院、眞宗寺、隨願寺、光林寺等佛寺の多き舉て算ふ可らず、又銀行諸會社を舉れば第四國立銀行(資本金五十萬圓)第一國立銀行支店、新潟米商會所(資本金三萬圓)安進社(資本金拾二萬二千圓)、業務信濃川汽船航海(越佐汽船會社)資本金二萬五千圓(新潟物産會社)資本金五萬圓、日本郵船會社支店其他にして新聞社は新潟新聞、東北日報の二社あり、例に依て重なる旅店及び廻船問屋を舉ぐれば左の如し

清水 芳造 西村 拾貳助 鈴木 長藏 健富 支店 小澤 源三郎

海部 藤藏 白井勝太郎 島護太郎 荒川 孝二 小川善五郎
 岸田忠五郎 山崎利吉 福井傳七 池 門平 山本勘四郎
 (以上廻船問屋)
 池上徳左衛門 住吉屋榮六 岩林清吉 和田屋清六 岩林清彌
 吉田 兼 小山長作
 (以上旅人宿)

草生水 新潟市を出て、本庄川の橋、阿賀野川の渡船、新崎橋等を渡り一里半許りにして柄目木といふ村あり、此村の左の方山中へ五六丁入りて池より草生水の湧出る所あり、四方木をもて井桁の如くに組立て、其中より湧出る水を「かくま」といふ草につくれば水は水、油は油と分る、といふ、按ずるに孝靈天皇の御宇越後の國よりもゆるる土、もゆる水を獻せしと國史に見えたり、もゆる水は草生水なるべし、草生水は今の石油の原料なり、もゆる土は今の石炭なり、此國往古より石炭石油の出しは是に依て明らかなれども土人を用ふるを知らず唯だ不思議として止みたりしが、慶長十八年に至り眞柄仁兵衛といふ者越前より當國に移り

來り此の油の地脈を考へ元和元年より寛永七年まで十六年間思ひを凝し勞を極めやうくに燈火の助けとなるまでに之を用ふるを發明したりとぞ、今其池の所有者は年々二十四石餘の石油を得るといふ是は昔しの七不思議の一なりき

火の出る井 是より又四五丁ばかり行き、路傍のとある家に火の出る井あり、是亦七不思議の一に算へられたり、是は火井と稱して當國には諸所到るところに在り、蒲原郡にては此の柄目村をはじめ如法寺村、草生水村、並槻村、小口村、又三島郡牛首村、魚沼郡一之宮村、中頸城郡倉下村等に在り、是は所謂る天然瓦斯なれども往古學理開けず其の何たるやを知らずして唯だ實驗上より之に點火して夜燈に換へたり、其法は火井の口に石臼を蔽ひ石臼の穴より竹筒を貫ぬき是に又長き竹筒を接ぎて思ふ所に引き(重に爐中に引く)點火すれば何處までも火氣傳ひて本末の差別なく同じ光りを放つなり、此の火井ある地には重に炭坑あり

兩毛鐵道

兩毛鐵道は日本鐵道會社東北線の小山驛に起り、西方に岐れて下野の栃木、岩舟、佐野、足利、小俣を経て上野に入り桐生、大間々、國定、伊勢崎、駒形を経て前橋に達し茲にて日本鐵道會社の中仙道線に連絡し、高崎よりは直ちに直江津行の線路と連絡するの便ありて其の延長五十二哩餘の線路なり、故に東國より信越地方に赴かんとするの旅客は此の鐵道に依るを便とす

●小山停車場 (栃木縣下野國下都賀郡小山宿)

此驛の景況及び近傍勝地の案内は日本鐵道會社東北線の部に掲げたり

●栃木停車場 (栃木縣下野國下都賀郡栃木町)

○栃木町 小山驛より思川の鐵橋を渡り六哩六十鎖にして栃木驛に達す町の廣袤東西六町餘、南北九町にして市坊の數八つあり、戶數三千六

百餘、人口一萬七千九百三十二、往時皆川秀光の居城のありし地なり廢藩置縣の時栃木縣廳を此の地に置きしが明治十七年に至り之を宇都宮に移せしより繁昌前日の比にあらずと雖ども而も尙ほ兩毛屈指の都會たり當町には郡役所、區裁判所、郵便電信局等あり、銀行諸會社にては第四十一國立銀行(資本金三十萬圓)栃木製造會社(資本金二萬圓)其外内國通運、日本運輸等の出張店あり、物産は繭、生糸、織物、麻苧等にして殊に七月より十月まで四ヶ月間毎月三八の日に麻苧の市場を開く、又旅店は金半事志島半平(萬町)料理店は鯉安、すし傳等名あり、是より例に依り近傍名勝及び避暑地等を案内すべし

錦着山公園 是は栃木停車場より西十町に在り、其頂上に登れば目前に筑波山を望み溪流之を繞りて風景最も佳なり、初め縣知事鍋島幹氏風光明媚を賞し去る明治十一年自ら經營して公園となし其頂に招魂社を建て明治十年國事に斃れし者の靈を祀る

太平山 是は柵木町の西壹里半許り田甫を隔てたる丘山是なり、兩毛線路の近傍避暑地に乏しからず、雖も太平山は恐らく最上の土地なる可し、此山は元治元年水戸浪士なる天狗連が楯籠りしより著明となれり、道路は近年新たに開墾せしものなれば極めて平坦にして腕車を行るに宜しく黄金八錢を投せば僅々廿五分間にして山麓に達するを得べし、山に近づけば溪流潺湲の聲耳を澄し輕風徐るに來りて暑熱を忘るゝに足る、斯て石階數百段を登りて漸く絶頂に至れば一の神殿ありて三光神社といふ往昔慈覺大師の草創せし寺院なりしが今は社となれり社殿より西南に行くと二町許りにして太平公園あり、古松柏老鬱爾として枝を交へ其下を散策すれば風輕く肌爽かなり、東には近く筑波を望み、北には遙かに富岳を望み、北には日光、足尾、二子等の諸名山連亘し、更に東南を望めば廣原數十里に亘りて一碧雲と連なり常總の山、甲武の峰層を突兀奇觀云ふべからず、殊に名にし負ふ坂東太郎は蜿蜒平原に走り、前面には赤

麻沼の鏡を磨せしが如くに澄渡れるを見る、更に東の方に歩すると二町許りにして虚空藏堂の前に出づ、柵木市街は眼下樹木の間に隱見して風色の新たなるを見るべし、此山は空氣清涼にして脚色其他諸病の轉地療養に適當なりとて近來茲に逗留して加養するもの月毎に増加せり、頂上には茶亭十戸許りありて何れも旅舎を兼ね飲食起臥の便殆んど欠くることなし宿料は一宿廿五錢以内、下宿料は一ヶ月五圓以内、瀛車賃は東京より柵木町まで下等五十七錢、上野發の第一列車に乗込めば午前九時四十一分柵木停車場に着すべし

柏倉琴平社 是は柵木町より西南二里餘、縁日は毎月十日にして其日は遠近より信徒の來り詣でる者夥たしく其の繁昌は太田の吞龍、桐生の天神、足利の大日などと共に稱せられ東京にて云はく川崎大師、堀の内祖師の如くなりといふ

國分寺 是は往古聖武天皇の建立したまひし七堂伽藍の一なり、今は土

地の名となり國分寺村と云ひ人口三千八百五十一を有す、栃木停車場より東北一里許りの所るに在り、東鑑に依れば國分寺の伽藍は文治二年五月廿九日に破壊せられしもの、如し此處にも武藏の國分寺の如く古瓦多くあり、今國分寺と稱する小刹ありて眞言宗に屬せり

三峰山 是栃木町より西北、箱森、新井、中方、梓、尻内、梅澤を経て鍋山村に在り、此の里程凡そ四里許り、即ち其村に鍋山と稱する高山ありて其絶頂を三峰に唱へ、月山の窟、大日の窟、不動の窟とて三つの岩洞あり、勝道上人の開基なりといふ諸國に信者あり三峰講など稱へ數千人群を爲して參詣に来る者多し當地には鍋山石灰の産物あり、土人は年中石を焼て諸國に輸出す

出流大悲窟 是三峰山に連なる出流山に在り、出流村より絶頂まで七町十六間、而して安蘇山續きの崖岸に岩洞ありて其中に自然天工の千手觀音の石像あるを出流の大悲窟とは云ふなり、傍らに大日窟、大師窟と

稱ふる岩洞あり其他佛跡と見ゆる活石數多ありて世に稀なる岩窟なり、補陀洛山建立記に當國伊豆留岩窟に千手觀音の靈像あり是れ入皇第三帝安寧天皇の御宇天人降り之を作る云々と見わたるが安寧天皇の御宇には未だ吾國に佛法傳はり來らず假令自然天工の千手觀音ありとも之を佛法の所謂る千手觀音とは何人も知らざるべきにと或る人は云へり

●岩舟停車場 (栃木縣下野國下都賀郡岩舟町字解)

岩舟 是栃木驛より五哩三十二鎖の所るに在り、戸數壹千餘、人口三千三百六十七、停車場の傍らに岩舟山あり、山の容倒さ船に似たり因て岩舟山と云ひ又其土地を岩舟といふ、山上には松柏生茂りて風景佳なり又此山より石材を産出する夥しく、其質水に弱くして火に強しといふ慈覺大師誕生の故蹟 岩舟驛より南半里にして三龜山あり、又三香保崎ともいふ、慈覺大師は此の地に生れたまひしとて今も尙ほ其の故蹟あり豊窪といふは大師の産湯あひ給ひし跡なりといふ、絶頂まで七八町に

地の名となり國分寺村と云ひ人口三千八百五十一を有す、栃木停車場より東北一里許りの所に在り、東鑑に依れば國分寺の伽藍は文治二年五月廿九日に破壊せられしもの、如し此處にも武藏の國分寺の如く古瓦多くあり、今國分寺と稱する小刹ありて眞言宗に屬せり

三峰山 是栃木町より西北、箱森、新井、中方、梓、尻内、梅澤を経て鍋山村に在り、此の里程凡そ四里許り、即ち其村に鍋山と稱する高山ありて其絶頂を三峰に唱へ、月山の窟、大日の窟、不動の窟とて三つの岩洞あり、勝道上人の開基なりといふ諸國に信者あり三峰講など稱へ數千人群を爲して參詣に来る者多し當地には鍋山石灰の産物あり、土人は年中石を焼て諸國に輸出す

出流大悲窟 是三峰山に連なる出流山に在り、出流村より絶頂まで七町十六間、而して安蘇山續きの崖岸に岩洞ありて其中に自然天工の千手觀音の石像あるを出流の大悲窟とは云ふなり、傍らに大日窟、大師窟と

稱ふる岩洞あり其他佛跡と見ゆる活石數多ありて世に稀なる岩窟なり、補陀洛山建立記に當國伊豆留岩窟に千手觀音の靈像あり是れ人皇第三帝安寧天皇の御宇天人降り之を作る云々と見わたるが安寧天皇の御宇には未だ吾國に佛法傳はり來らず假令自然天工の千手觀音ありとも之を佛法の所謂る千手觀音とは何人も知らざるべきにと或る人は云へり

●岩舟停車場 (栃木縣下野國下都賀郡岩舟町字靜)

岩舟 是栃木驛より五哩三十二鎮の所に在り、戸數壹千餘、人口三千三百六十七、停車場の傍らに岩舟山あり、山の容倒さ船に似たり因て岩舟山と云ひ又其土地を岩舟といふ、山上には松柏生茂りて風景佳なり又此山より石材を産出する夥しく、其質水に弱くして火に強しといふ慈覺大師誕生の故蹟 岩舟驛より南半里にして三龜山あり、又三香保崎といふ、慈覺大師は此の地に生れたまひしとて今も尙ほ其の故蹟あり豐窪といふは大師の産湯あひ給ひし跡なりといふ、絶頂まで七八町に

過ぎず風色頗る佳なり、山麓に太田觀喜天の小刹あり其境内に櫻の名木ありて一枝毎に八重と一重と咲交りていと珍らし

●佐野停車場 (栃木縣下野國安蘇郡佐野町)

○佐野驛 は安蘇郡の内田沼に亞で繁華の地なり、一名天明町といふ町の廣さ東西壹里四町余、南北九町余、市坊四より成り戸數一千三百餘、人口六千九百十九、栃木を距る五里十二町の所ろに在り、近時蠶業織物等盛んにして物産の重なるは絹木綿織物類、生糸、石炭、鑛物等にして世に足利織といふは多く此の邊より出づ、官衙其他にては郡役所、警察署、治安裁判所、郵便電信局等あり又銀行諸會社の重なるものを舉れば佐野銀行(資本金七萬圓)天明セメント會社(資本金五萬圓)下野織物會社(資本金二萬圓)等あり、毎月四九の日に市を開きて木綿織物を賣買す、又近傍葛生に安蘇輕便鐵道會社あり、線路は同地より佐野を経て馬門に至り旅客及び荷物を運搬す、旅店は齋藤、料理店は田島樓、金子、

川樹等何れも著名なり

唐澤山の城址 佐野停車場より西北里許、同郡栃本村に在り天慶中藤原秀郷朝臣の築く所といふ後裔賴行に至り一旦中絶せしも八代の孫成俊に至り再興して子孫茲に住せり、徳川氏に至り井伊家の領地たりしが廢藩置縣の後栃木縣の管轄となれり、近時佐野常民氏佐野恒世の後裔を以て現はれ、後恒世にあらすして秀郷の後裔なるを知り其の靈を此山に祠り唐澤神社と號す、先年特旨を以て別格官幣社に列せらる又當山は公園地となり多く松茸を産す、期節に至れば茸狩に來る者多し
八州園 停車場の近傍に在り、慶長七年佐野信吉徳川家康の命に従かひ唐澤山より移りて城くところのものにして即ち佐野古城の址なり今は公園となりて八州園といふ、蓋し關八州を一望する所なればなり、構内廣潤にして樹木鬱蒼たり
安蘇沼の古跡 佐野の東の入口小屋町といふ所の田の中に東西四間南

北六間許りの小池あり、昔しは安蘇沼と云ふ大沼なりしが物變り星移りて次第に水田となり今は其跡のみを殘せり、其東方三町許りに阿曾沼四郎廣綱の古城址あり一觀すべし、八幡宮あり、
 館林町 上州館林町は佐野町より行くべし、里程僅かに二里半、赤阪田島を経て渡良瀬川を渡り、下早川田より館林に入る、市街は東西二十一町、南北十町、市坊二十八より成り、戸數二千五百餘、人口九千二百を有し、郡中第一の市街にして此地に邑樂郡役所、警察署、郵便電信局第四十國立銀行(資本金五十六萬圓)等あり、物産は重に木綿織にして殆んど佐野に類す、市に館林城址あり寶永七年松平清武が幕府の命を承て城きしものなり、城内に有名なる躑躅の樹あり期節に至れば遠近より遊覽に來る者多し

●足利停車場 (栃木縣下野國足利郡足利町)

○足利町 是宛かも本線の中央に位し、北に大岩山を負ひ南に渡良瀬

川の水あり、鐵路開けてより水陸の運輸大に便を加へ商工業の繁昌昔年の比にあらず、市街は東西廿町餘、南北七町餘にして戸數四千五百、人口壹萬五千零廿八を有し、町内には足利郡役所、警察署、區裁判所、郵便電信局等あり、銀行會社にては第一國立銀行出張店、第四十國立銀行支店、第四十一國立銀行支店、内國通運會社出張店等あり、此地絹木綿諸種の織物を産出し足利織の名世に著はる明治十年の比西洋色染の輸入ありてより粗製濫造に涉り一時世の信用を失ひ頓に産出の額を減じたりしが同十二年有志者相謀りて弘業會なるものを開き内外各地の織物を蒐集して營業者の參考に供し、翌年又足利物産取扱所を設け、次で工商會を開き特別證票の規約を設けたり、同十八年織物講習所を設け上野國桐生町と聯合して染法、織方を奨勵し以て其衰頽を恢復するに至れり此地産出する織物は毎年凡そ三百萬個にして其價凡そ金二百萬圓に上る以て其の盛況を推知すべし、毎月五十の日に市を開き絹、木綿織物を出品す

旅店は初谷多十郎、古久屋鷺五郎、料理店は相模樓及び前記の初谷（旅
店兼業）等何れも名高し

足利城址

市街より西北の山上に一城址あり、城山といふ、天喜年間

足利太夫成行の築くところなり、嫡孫家綱女性凶害に依て足利莊の領主
職を停められ新田冠者義重に賜ふ、家綱の孫又太郎忠綱に至り平家の滅
亡に際會し彦間の山中に潜居したるが遂に自殺したりといふ其後足利陸
奥守義康に至りて又此城に居り其子孫傳へて尊氏に至れり、足利亡びて
長尾氏の居城となりしが徳川氏天下の政權を握るに及んで古河土井氏の
領地となり尋で戸田氏の領地となる、廢藩置縣の後栃木縣の管轄となれ
り今は一も壘壁等の存するものなし

大日如來

は足利町の北裏に在り、金剛山鑿阿寺と號し眞言宗に屬す

七堂伽藍

あり有名の古刹なり、足利上總介義兼の創立する所にして正治

年間の創立なりといふ

足利公園

足利町の西端に在り、明治十九年之を開くに方り一古墳を

發見せしに其中の石室より出たる武器、裝飾品、齋壘、土器等を採集し
て考古家の參考に供したり其後帝國大學總長渡邊洪基氏又々舊跡を探り
て二墳を發見し之を發掘して人骨、武器、馬具、金屬環、曲玉、切子玉
等を獲たり、古墳及び古器は學術上有益の物なるに依り渡邊總長は大學
々生坪井正五郎氏の説明を添へて去る廿年足利學校に寄附したりと

足利學校

は足利町の北に在り、淳和天皇の天長年間小野篁卿の創建

なりと云ひ又國學の遺制なりとも云ふ、永享年間上杉憲實此校を中興し
鎌倉圓覺寺の僧快元をして校主たらしめしより爾後細流の管するところ
となり代々江戸金地院に附屬せり、維新の際藩主戸田氏に校務を委任し
廢藩置縣の時に及びて栃木縣の所轄となり近年朝廷古跡保存の事を縣廳
に委ね足利町の有志者を撰びて保護員たらしめ、傳來の古書及び有志の
寄附に係る書類等を弘く閱覽せしむ我邦に於て上代の學校の存するもの

獨り此校あるのみ

●小俱停車場 (栃木縣下野國足利郡小俱村大字小俱)

○小俱驛 是足利郡の西端に位し、上州山田郡と郡界を爲す、即ち上野下野の州界なり、戸數一千五百、人口五千二百二十九あり桐生足利と同じく織物の産物にして多く帶地を出す、此地は往時澁川義勝の居りし所にして近傍に在る雞足山は其の城址なり、義勝初め上杉謙信に屬し後北條氏に降りといふ

●桐生停車場 (群馬縣上野國山田郡桐生町)

○桐生町 是山田郡の東部に在り、郡中第一の繁昌地にして戸數四千人一萬七千九百六十一を有し、町に山田郡役所、警察署、郵便電信局等あり、銀行及び諸會社にては第四十國立銀行支店、横濱第二國立銀行出張店、日本織物會社、桐生緬會社(資本金二萬五千圓)等有名なり、殊に織物會社は其事業頗る盛大にして工場器械の壯大なる人目を驚かす

に足るものあり、此地古へより機織の業大に盛んなるを以て京都の西陣に等しく世に名高し、近來織物の産額は例年凡そ百三十萬個にして價格は金三百萬圓内外に及べり、抑此地の由來を原ぬるに古へ桐生六郎爲顯なる者ありて此地に住す、其祖を綱元と云ふ治承四年頼朝平氏を富士川に討に當つて綱元功あり由て此地を與ふ、正平元年其裔親綱新に居城を檜杓山に築き天正元年由良氏の爲めに滅されたり今上久方村にある城址是なり、又町に沿ふて桐生川あり河水清澄にして織物を洗ふに適せり名木相生の松は停車場より北半里に在り此地に遊ぶ者一顧すべし、旅店は金木屋富三、角屋幸二郎(以上新町)料理店は山二、林屋等名あり
新町鑛泉 是桐生新町に在り、其由來は詳らかならざれども明治二十一年以來同町北澄國藏なる者許可を得て營業す、鑛泉は殆んど無色臭透明の液にして極めて弱き亞爾加里性反應を呈す、重に慢性癩麻質斯、神經麻痺、婦人生殖器諸病、胃腸加答爾等に効ありといふ

高津戸の奇景 桐生町より東北壹里廿五町(人力車賃十五錢)渡良瀬川に臨める高崖の名なり斷崖絶壁に橋を架す、此の橋に立て兩岸を望めば水深く岸高く、古松枝低く川に臨みて垂れ、巨岩磐蒸して色緑を爲す、此地固山田七郎吉之の居城なりしが桐生氏の爲めに亡ぼされ、後里見隨見、同平四郎等之に住みしも天正六年新田氏の爲めに亡ぼされ今は唯だ風色を愛するの地とはなりぬ、是より行くと四五町にして羽根瀑あり、渡良瀬川の足尾より降りて一屈曲を爲す所より落ち奔流激湍兩岸に觸れて石を鼓するの音は宛ら遠雷を聞か如し、毎年七八月の頃より香魚の瀬を登らんとするを待ちて漁夫は岩上に跨がり、竿網を以て魚の跳上らんとするを捕ふ其技頗る巧みなり、近來足尾銅山より流れ来る鑛毒の爲め香魚の繁殖を妨げしは惜むべし、此地旅舎なければ桐生又は大間々より日歸りになすべし

●大間々停車場(群馬縣上野國新田郡笠懸村字阿佐美)

○大間々町 は桐生より渡良瀬川の鐵橋を渡り、僅々二哩三十八鎖にして達すべし、山田郡中桐生に亞ぐの繁昌地にして戸數凡そ千五百、人口五千零六十五を有し、養蠶製糸を以て名あり、市に區裁判所、郵便電信局等あり、旅舎は豊田、鶴屋、料理店は三澤屋、海老屋等名を知らる
 藏塚鑛泉 大間々停車場より南一里二十町、人力車賃二十錢にて着するを得べし、同地は新田郡に屬し後に小高き丘陵を遶らし前には限りなき水田を見晴し風景佳なり、泉質は炭酸泉にして温泉神社石階の麓より湧出す、之を巖理泉といふ鑛泉宿は今井樓と云ひ數十の客室あり館内に鑛泉を引き冷温二棟の浴室を設く、宿料は一夜金二十錢以上四十錢まで魚類は常陸の海岸より汽車にて輸送し來るを以て常に新鮮なり、其外牛肉、鶏肉、牛乳等にも事を闕かず、近來桐生よりの新道開けたるを以て浴客の便利少なからずといふ、但し桐生の部に記せし長岡鑛泉場と相距る僅かに二十町、半時間にして相往來するを得べし

樽下及び廣登鑛泉 樽下は南勢多郡の東部渡良瀬川に接したる宿廻村
 字樽下に在り、大間々停車場より僅かに一里廿三町、地勢山間に位し、
 北に黒檜山、駒ヶ嶽等屹立し氣候冷涼にして最も避暑に適す、泉質は炭
 酸泉にして慢性皮膚病、神経病、氣管支加答兒(以上外浴)胃加答兒、頑
 固便秘(内服)等に効あり、又廣登鑛泉は樽下鑛泉の左傍黒檜山の山麓に
 在り地勢は海面を抜と凡そ千四百十尺にして氣候其他すべて樽下と異な
 らず、泉質は亞爾加里性炭酸泉に類し、胃加答兒、腸加答兒、氣管支加
 答兒、婦人生殖器の慢性加答兒、痛風其他の諸病に効能ありといふ
 赤城山 は大間々停車場より西北五里三十丁、又前橋驛より東北六里
 二十五町の處ろに在り、妙義、榛名を併せ上毛の三名山と稱せらる、黒
 檜、地藏、銀割、鈴ヶ嶽等の總稱にして其頂に大小二つの沼あり、風色
 奇絶、畫圖も亦及ぶところにあらず、此の沼を石垣沼といふ、拾遺集に
 「たぐ山の石垣沼のみともりに戀やわたらんあふよしをなみ」とあるは是

なり、沼の廣さは周圍壹里三町、東西十五町、南北十町その水清くして
 鏡の如く、下流を沼尾川と云ひ津久田村の北にて利根川に注ぐ、南腹に
 赤城神社あり、大巳貴神、豊城入彦命を祭るといふ又近傍に牧馬場、牧
 牛場等あり、此山夏日に至れば登山する者頗る多し、但し東京より赴
 く人は所謂る北越線に道を借りて前橋驛より瀛車を降るが順路なるべし
 同所より小暮まで人力車を驅り夫より徒歩にて登山するなり、小暮より
 頃上まで四里餘、阪路險惡にして登り易からず、登山者は十分其用意な
 かるべからず

湯の澤及び不動鑛泉 (北越線の松井田、横川兩停車場より往く所に湯
 の澤鑛泉二ヶ所あり混同すべからず) 湯の澤鑛泉は赤城山荒山嶽の東麓
 に在り、萩澤温泉を距る僅かに里許、往時は浴場客室等壯大の建物あり
 しも一旦火災に罹りしより爾來數年の間衰頽の狀ありしも明治十八年東
 宮六郎治なる人有志と謀りて新たに浴室を設けしより年々浴客を増し今

は殆んど舊に倍するの繁昌を見るに至れり、泉質は炭酸泉にて氣管支加
 答兒、喉頭痛、傷麻質斯、諸皮膚病其他に効あり、地勢は海面を抜くと
 二千三百四十尺、四面山又山の溪間に位し、鍋割、荒山の二嶽は屹とし
 て前に聳え直徑數百歩にして達すべし、又神庫嶽は背後に在りて風光明
 媚の仙境なり、氣候は盛夏の頃と雖とも炎熱に苦しむとなく避暑には最
 も適地といふべし、又不動鑛泉は湯の澤の東字瀧澤に在り、相距る甚だ
 遠からず、泉質は鹽類泉にして胃腸加答兒、肝臟病、月經不順、子宮病
 皮膚病其他に効あり、地勢氣候等湯の澤に異ならず、同所に瀧澤不動
 あり巖窟の中に堂塔を建設したるものにて往古の建築と見え古色愛すべ
 し不動の瀧は堂の背後三四町許りに在り、高さ十餘丈垣沼の水流墜して
 瀑布となり水烟飛散頗る壯觀を極む

● 國定停車場 (群馬縣上野國佐位郡東村字國定)

○ 國定 是蘭生糸等の産出地なり、昔しは長脇差なんど唱ふるもの流

行し今も其氣風を存せり、彼の國定忠次といふは此地の産なり今も子孫
 生存すといふ

● 伊勢崎停車場 (群馬縣上野國佐位郡伊勢崎町字紺屋町)

○ 伊勢崎 是織物の産出地にして桐生、足利、佐野等と相並んで其業頗
 る盛んなり、殊に伊勢崎太織を以て名あり、町の廣表東西七町、南北六
 町、市坊十七あり戸數一千八百餘、人口五千七百十五、佐位郡中第一の
 繁昌地なり、此地古しへ赤石郷と云ひ三浦義澄の領地たり、大永元龜の
 際赤石左衛門父子茲に居り、伊勢崎と改稱す、小田原の役北條氏亡び城
 從つて廢せられ徳川氏の世となり酒井家の封土となり、廢藩置縣に至り
 群馬縣の管する所となれり、地に佐位郡役所、警察署、郵便電信局、伊
 勢崎太織會社等あり、旅館は錢屋(泉布館)を最とし料理店は湖川樓最
 る流行すと云ふ

藥師山鑛泉 是伊勢崎、駒形兩驛の北部に在り、伊勢崎停車場を距る

僅かに二十町、泉質は鹽類泉にして皮膚病、癩麻質私、頑癬、疥癬其他に効あり、近傍にて一顧すべきは連取の笠松なり那波郡連取村菅原神社の境内にあり、鑛泉地と接近す、其狀傘に髣髴たり、兩幹にして高さ丈餘、南北十有餘間、東西二十有餘間に蔓延す、享保年中裁ゆる所なりと云ふ古歌あり是を略す

岩理及び入長岡鑛泉 は伊勢崎停車場より東南二里三十町、新田郡北藪塚村に在り、字入の湯に在るを岩理温泉と呼び、其隣邑長岡村に在るを入長岡温泉といふ、今二者の泉質及び効能を記さん岩理は單純冷泉にして疝氣、脚氣、黴毒、痔其他に効あり、入長岡は鹽類泉にして痛風、婦人生殖器病、氣管支加答兒其他に効あり、地下丈餘の岩理より湧出すといふ、地勢は岡部東北を擁し西南は平垣にして土地沃饒灌漑に便なり、往昔此邊を笠懸野と稱し元弘中新田義貞始めて義兵を市野井村生品神社の祠前に擧げ笠懸野に出陣したりといふ實に當地方は群馬縣下有名

の舊跡地にして近くは高山彦九郎正之の如き勤王の士を出せり氣候は四時寒暖度に適し避暑に便なり、例に依り近傍勝地を左に記す

新田義貞城址 新田郡の東部に孤立する金山の頂に在り、山の高さ百餘丈、松樹鬱蒼として枝を交へ多く松茸を産出す、城址は今尙ほ古井壘礎等を存す、明治六年此地に一社を建設し新田神社(縣社兼郷社)と號し左中將を祀る、側らに小祠あり御嶽神社と云ふ

高山神社 は御嶽神社の東南方に在り、高山彦九郎正之を祀るところなり、縣社に列せらる、正之は同郡細谷村の人、慷慨にして大節あり、維新前皇室の衰頹を歎き天下を跋渉して密かに志士を鼓舞す、明治十一年朝廷之を追賞して正四位を贈り社宇建立の資金を賜ふ

世良田 郡南に在りて利根川に瀕す、茲に二社あり曰く八坂神社、曰く東照宮、後水尾天皇の勅額及び徳川家康幼時の甲冑を藏す、村南に天台宗長樂寺あり堂塔輪奐の美を極め、境内老樹多く幽邃閑雅なり、其什

寶中鎌倉以來の古文書多し、村西に眞言宗總持寺あり、寺域は新田義重の館址なりといふ

大胡城

は前橋桐生間縣道の中央に在る南勢多郡大胡村（人口三千五百四十七）にあり、伊勢崎を距る北方三里許り、弘治中大湖重治初めて之に據る天正の初め其裔高繁に至り由良國繁の有となり北條氏に屬す、小田原の役城陷るに及んで徳川家康牧野康成をこの地に封じ元和二年其子忠成を越後長嶺に移し封じて後廢せり、此地また生糸産出を以て名を知られ年々産額多し

駒形停車場

（群馬縣上野國南勢多郡木瀬村字小屋原村）

○駒形町

は戸數三百、人口壹千百餘、生糸の産出地にして住民平ばは蠶糸業に従事す、この地昔しは那波氏の有たりといふ、赤城山麓の湯の澤不動等の温泉場は、當停車場を距る二里餘、旅客は伊勢崎より往くも當地より行くも差たる相違あらざる可し

●前橋停車場

（群馬縣上野國東群馬郡上川淵村字前代田）

○前橋町

は上野の中點に位し、赤城、榛名の峰巒蜿蜒として西北に連なり利根川は西南を環流し東南は沃野千里一望際涯なし、全市の幅員東西壹里二十三丁、南北三十一町餘、市坊四十一、戸數五千五百、人口三萬千七百十六、最も繁昌なる所は大字本町、連雀町、堅町等にして街衢八達、商家軒を並べ製糸の業最も盛んなり、群馬縣廳は字曲輪町に在り、裁判所、尋常中學校、常尋師範學校、監獄署、東群馬南勢多郡役所、警察署、郵便電信局等悉とく具はり、銀行にては第三十國立銀行（資本金七十萬圓）第二國立銀行支店、第卅三國立銀行支店あり、會社にては上毛繭糸改良會社（資本金百萬圓）を始めとして繭糸紡績等の爲めに設けたる會社又は組合製造所と稱するもの都て二十餘、此の資本總額無慮二百萬圓に下らず、其他諸種の會社製造所等枚擧するに遑あらず、上毛新聞社は曲輪町に在りては日に繁盛を極め基督教會は紺屋町に在りて長く教

化を垂る、劇場には愛宕座、敷島座、三井座等あり、勸工場あり寄席あり其他諸種の興行物備はらざるはなし、殊に此地兩毛鐵道最終の停車場にして、是より直江津線に連絡するを以て京濱に赴く者、信越に行く者概ね道を茲に取らざるなし、故に百貨輻輳民物歲月を逐ふて繁盛なり、此地古しへは厩橋と唱へたるが酒井侯在城の時幕府に請ひ「まやばし」「まへばし」國音稍相似たるを以て前橋に改めたり蓋し庶人便利を計り厩の難字を避たるに外ならず、足利氏の中葉より世は麻の如くに亂れ、英雄四方に割據するに方り、此地亦英雄戰鬪の街となれり、抑も此地の由來を記さんに厩橋城は文明十二年庚子長尾宗覽の築く所（太田道灌ともいふ）にして長尾氏久しくここに居り、永祿五年長尾入道謙忠上杉謙信の爲めに亡ぼされ、其後越後より北條丹後守遷り居れり、天正六年丹後守春日山に於て討死せしより間もなく甲州より西條治部少輔遷り居り、天正十年織田信長の土瀧川左近一益ここに居れり、其後小田原より

瀧田彦四郎、松田兵部太夫之に居り延て徳川氏に及び松平大和守の居城となり維新の後群馬縣廳を高崎より茲に移せしかば遂に今日の繁昌を見るに至れり縣廳所在の曲輪町は素城廓の跡にして、其他新堅町、連雀町の片原、神明町等は皆舊城を變換して市となせし所なり、例に依り重なる旅人宿を左に記す

- 松坂屋 吉田藤七(堅町) 油屋 田部井安太夫(本町) 住吉屋 宮内國太郎(片原)
- 藤の屋 佐藤與三郎(曲輪町) 岩六 金子幸次郎(本町) 鍋屋 松官彌平(横山町)
- 中藤 遠間惣五郎(曲輪町) 小泉屋 小池柳三(曲輪町) 本陣 松井嘉一郎(本町)
- 三眺樓 金井こと(本町) 鐵線亭 堀内榮吉(停車場前)臨線樓 田所かつ(同上)

臨江閣 は同地柳町に在り、高閣巍然、結構壯麗、上下に大廣間あり共に數百人を容るべし、皇族大臣其他貴顯の旅館に充て又平生は集會宴席等に貸與す、閣上より望めば榛名、赤城の諸山雲表に聳え呼べば應へんと欲し、坂東太郎の白練一帯は閣下に流れ眺望絶佳、最も夏時の遊樂に適すといふ

樂水園 臨江閣の北、風品川に沿つて西山堤を下るところに在り、亭園頗る静雅にして詩基小集に妙なり秋夜は殊に聽蟲を以て名あり敷島河原 北曲輪町東照祠畔の堤上より瞰下すれば一帯白布を敷くに異ならず是れ利根の河原なり、大渡へ近き邊りに數百の桃樹あり花時には紅雲一帯、遠く望めば美更に美なり

岩神 向町より舊澁川道廣瀨川の傍りに在り、四個の巨岩より成る、松樹巨岩の間より生じ頗る奇觀を呈す、往昔廣瀨川は刀根川の本流なりしが大洪水の時片石山の北崖崩壊し大石押流されしことあり、此岩は其一なり、當時南崖は残りしを以て片石山の唱へ是より始まるといふ

利根橋 明治十八年十二月竣工せり、長さ百間、幅四間、縣下隨一の長橋なり、南日本鐵道會社の鐵橋と相對するを以て之を刀根の双橋と云ふ龍海院 紅雲分に在り縣下曹洞宗の樞軸にして境内東西四十一間、南北五十六間、市中無比の大利なり、酒井侯歴世の墳墓あり、古松老柏鬱

蒼として枝を交へ風光頗る佳なり

八幡社 連雀町に在り、縣社にして前橋市の鎮守なり、祭神は譽田別命、相殿は比咩命、息長媛命、境内に銀杏の大樹二株あり周圍各一丈五尺余、數百年を経たるものなりといふ

雙兒山 停車場より東、天川に在り其形瓢を傾ふけたるに似たり、

土俗御諸別命の陵なりといふ

東照宮 北曲輪町に在り、松平侯再築の際慶長年間川越より遷祠せり

と明治四年養行院より菅公の祠を遷して合祀す又招魂祠あり境内には梅櫻數百株を殖ゑ小公園の趣をなせり

生井鑛泉 は曲輪町に在り、停車場より僅々十町に過ぎず、地勢高燥にして稍や熱鬧の市街を離れ殊に曲輪町通りの裏町に屬するを以て家屋稀疎にして空氣の流通極めて宜し、茲に屹立したる層樓を求全館と稱し即ち生井鑛泉の浴舎なり、樓下樓下數十の客室は清潔瀟洒にして多く其

比を見ず、前庭には泉水あり潑刺として鯉魚の跳るを見る、樓上に至れば赤城棒名の巒峰突兀として起伏し妙義、白根の奇峰また眉間に在り、眺望絶佳四時の風景一々寫すべからず、泉質は亞兒加里往炭酸泉にして外用、服用ともに効あり、殊に慢性腸胃加答兒、婦人生殖器の加答兒、貧血、痛風其他に用ひて効ありといふ

伊香保温泉　は上野國西群馬郡伊香保町に在りて前橋停車場を距る五里廿五町(高崎より七里十五町)東京よりは三十五里餘を隔つ、猪其原路は前橋停車場を出で北の方へ行くと十二三町、澁川道の町外れ字細ヶ澤に至れば茲に鐵道馬車の停車場あり、下等乗合馬車は一時間毎に發し澁川まで一人前十二錢(下等借切一圓五十錢)其途中半田の先にて馬車を降り利根川の舟橋を徒歩にて渡り向ふ岸にて再び馬車に乗移り一時三十分間にして澁川に達す、澁川の鐵道馬車停車場前に茶店ありて茲にて伊香保行の人力車切符を賣捌く、伊香保まで二人曳七十二錢の定めなれど

雨後道惡き時は一割乃至三割を増すを常とす澁川より先はすべて登り坂にて凡そ一里許り行きたる道の左の方に御影の松といふ古松あり明治十二年　皇太后温泉へ行啓ありし時こゝに御野立ありしとて村民後に萬里小路博房卿の和歌と前の群馬縣令梅取素彦氏の題辭とを請ひ碑に刻して樹の傍らに立つ卿の和歌は「芝中も松のやどりに千代かけて残るは君が御影なりけり」夫より更に坂道を登り澁川より行くと凡う一時三十分間にして伊香保に達す、此の地は素嶮しき山の中腹を拓きしものなれば南に山を負ひ、西は谷に臨み東北に向ひて田野を見晴し家は皆な崖を築き石垣を疊みたる上に建て設けたればこの屋根は甲の床と並びて一段は一段より高く、其狀楷梯を立かけたるが如し、温泉宿の名高きものは把翠樓事木暮金太夫、聚遠館事木暮武大夫、香山樓事村松秀茂、仁泉亭事千明はる、岫雲樓事島田多朔、掃雲樓事永井喜八郎、積流館事島田忠藏、浴蘭堂事岸權三郎、大島甚左衛門の十軒にて之を大家といふ、温泉は市

街より南の方凡そ八町の谷間より湧出し湯元に在りては温度華氏百二十三度なれども樋にて各浴室へ導びくの途中には温冷むるを以て内湯にては百十度内外となり所謂入り加減となるなり、大鉢の温泉宿には浴室四五ヶ所もありて何れも竹の樋より龍の如くに浴槽に落ち其餘りは溢れて市中の溝に出で又集りて一つの流れを爲し其下は水車にかゝると都て六ヶ所、晝夜新陳代謝して止まざれば清潔なるは云ふまでもなし、色は少しく赤土色を帯びて濁れ臭氣なく、泉質は純粹なる炭酸泉にして胃弱、痲痺、白帶下、月經不順、貧血症、皮膚病、神經痛等の諸病に効あり

物聞山 是伊香保市街の東南に聳えたる小丘にして俗に金比羅山といふ、藻鹽草秋の寢覺等に物聞山は上野とあり、和漢三才圖繪に物聞山は伊香保に在りて見ゆ又上野志、名跡考には伊香保の東南松樹鬱蒼たる山なりとあり依りて金比羅山の本名なりとす、此山の中腹に登れば伊香保全市街を眼下に見おろじ眺望絶佳、所謂伊香保八景の一なり

船入山 是伊香保より高崎に至る街道の西の方に在り、昔し此山に傳教大師の開基せし巨剎ありしとて山の南腹に遺跡あり、又山の東北に大瀑布あり之を船入の瀧といふ直徑二十丈、幅二間ばかり水烟四散して近づくとべからず、此瀧澁川邊より遠望すれば其狀白布を懸けたるに似たり下流を龍の澤と云ひ東に流れて利根川に入る

ニッ嶽蒸風呂 是伊香保の南二十四五町の所に在り、山麓の砂地より蒸氣を發す、其熱度百十度より百二十度に至る、竝に屋根を覆ひ四方を密封して體を蒸す、稍や久しければ絶息する者あるを以て近年は屋上に空氣孔を穿ち又は別に屋舎を設け頭部を出して身軀のみ蒸すやうにしたるもあり、其傍らに二三の浴舎あり伊香保の浴客一日の運動として來る者多しといふ

澤渡温泉 是前橋停車場を距る西北十一里廿五町、上野國吾妻郡上澤渡村に在り、順路は前橋より澁川まで鐵道馬車にて來り、澁川より中之

條まで五里半の道に乗合馬車はあれを發着時刻不規則にて當にならねば人力車を雇ふが便利なり、賃金は澁川より中之條まで五六十錢、澤渡まで通じ車にて八十五錢より壹圓まで、途中上り阪なれば往々車を下りて歩行せざるべからず、又伊香保より此地に赴かんと欲せば途中山道にて人力車を通せず先づ湯中子を経て加々摩利山の北峰を越え五町田を過ぎて澤渡道に出るなり、此地三方山もて圍まれ東南の方少しく開けて近く四萬川に接す素より山間の一村落到過ぎずして左のみ見晴し好き地にもあらず、唯だ海面を抜く凡そ二千二百尺の上に在るを以て山氣肌を襲ひ、暑中寒暖計八十度以上に昇らず夜に入れば六十度以上に降るとあり故に避暑には極めて適當の地と爲す、泉質は硫黄泉にして専ら病後の衰弱を醫し胃病、腺病、皮膚病、梅毒等に効あり温泉宿は福田みき、福田六右衛門、福田善八郎、關口十郎、關總吉の五軒にして宿料は通常一日二十錢より三十錢まで、席料、賄料、入浴料を合せて一週間の費用一圓

五十錢より二三圓までにて辨すべし、此外二三軒の小料理店あり諸物價は僻地の割合に高からず
 四萬温泉 は吾妻郡四萬村に在り中之條までは澤渡と同じ道を取り澤渡道の中途より岐れて四萬村に入る、前橋より里程十三里十二町、中之條よりは四里七町、村の人口に山口温泉といふあり個は近郷近在の者農業の暇來りて浴する所にして都人士の來る者稀なり、是より溪流に架けたる小橋を渡れば四萬温泉に達すべし土人は此湯を新湯と唱へて山口温泉と區別せり戸數は二十戸許り、温泉宿の立派なるは田村茂三郎（小倉屋）關善平の二軒にして共に客室百室以上を有す、何れも内湯の設けありて繁昌す、四萬より溪流の岸に沿ひ昇り行くと數町の所に日向温泉あり、戸數僅かに二戸あるのみなれど前に水晶山を望み近く大泉、小泉の瀑布に接し土地頗る閑雅なり、四萬温泉は中央に新湯川の流れを狭み地勢は峰巒谷の間に位し海面より高きと殆んど三千尺、氣候は炎威三伏

の日も猶ほ秋冷の候の如し、浴場旅館の如きは壯大瀟洒ならざるなく近
 來其名漸く著はれ夏日浴客多し
 川原湯温泉 は四萬温泉の途中、中之條より分れて原村を過ぎ行くと
 三里足らずにして岩島村に達し茲より一里にて到着すべし、中之條より
 岩島村まで一人與人力車賃五十錢、岩島より前は人力車を通せず肩輿に
 て行かば賃金廿五錢の上に出でずと雖も足弱の病人を除くの外は歩行
 の方却つて興あり、温泉場は金鷄山の半腹字上打越と唱ふる所に在り、
 地勢海面を抜くと凡そ二千六百六十尺にして山を負ひ溪に臨み風光明媚の
 仙境なり、而して此地は四時其觀を異にし春は桃櫻の香風衣を襲ひ、夏
 は不動の飛瀑清涼肌に迫り、秋は金鷄山の月夾心を照らし、冬は聖天祠
 の雪玲瓏萬峰を籠む、吾妻川の奔流は岸に激し巖に觸て潺湲として天樂
 を奏するに似たり、斯の如く深山幽谷の裡に在るを以て盛夏烈日の頃と
 雖も春暖の候に異ならず泉質は硫黄泉にして湯口は大湯、龍の湯、目の

湯、百々湯、笹々湯等に分れ、虎の湯は温泉元萩原慎太郎方の亭内に在
 り、温泉宿は萩原を始めとして樋田宗七郎（升屋）樋田又平（山本屋）豊田
 道藏（柏屋）の四軒にして外に柏屋、高田屋、中屋、林屋等の料理店あり
 草津温泉 は上野國東北の極端に在りて吾妻郡に屬し、信濃上野の州
 界を距る三里許り、地は楯盆の狀を爲し四方丘陵を遶らし海面を抜くと
 凡そ四千五百尺、季候清涼にして三伏の候と雖も人間の苦熱を知らず
 所謂高嶽氣候の療養に適するものなり、此地淺間の火脈にて温泉の湧出
 する所數ヶ所あり就中最も大なるを御汲上の湯と稱し村の中央に在りて
 東北に面し湯壺は縦横凡そ五間ばかり其前面より温泉滾々として噴出し
 晝夜歇む時なし即ち瀧湯の源泉なり之に亞ぐ者は御坐の湯、熱の湯、和
 志の湯、地藏湯、澤の湯、西川原等にして温度は百四十二度を保ち痼疾、
 經久梅毒、先天遺毒、血液變敗等の性に特効ありといふ温泉宿には是等
 の人の爲めに適宜眞水を加へて其成分を薄らげたる浴槽を備へ置くなり

此地は古き温泉場ほゞありて數代連綿たる温泉宿多く、料理屋、貸本屋、大弓店、新聞雜覽所等消閑の具も備はり郵便局は旅館黒岩忠四郎方を以て充て毎日二回の集配を爲せり重なる温泉宿を擧ぐれば左の如し

- 黒岩忠四郎 一井善三郎 湯本柳三郎 中澤一郎次 山口幸八郎
- 市川久三郎 新納伊三郎 桐山二平 富永徳三郎

等にして何れも客室數十室を備へ、食類は海魚には乏しけれども鰻、鮭、鯛、鮎、鶏肉、牛肉、小禽類には不便を感せざるべし宿料は一夜二十五錢以上六七十錢まで、一週間二圓以上五六圓までなれども座敷のみ借り手賄するも勝手なれば長逗留する者は此方が經濟なるべし

榛名山 は前橋より八里十三町、伊香保より二里二十町の處に在り、伊香保より榛名神社までは山道なるを以て駕輿の外は車馬を通せず男子ならば伊香保より案内者を雇ひ徒歩にて行く亦却つて途中名所を探るの便あるべし、其の途中に有名なる伊香保沼あり、其傍らに天神峠あり、

此處より榛名神社まで下り道十八町、天神峠より榛名へ下るには新舊二筋の道あり榛名の山々は行先の右手に連なりて或は高く或は低く、古松老杉はいやが上に生茂りて木蔭涼しく盛夏の時と雖ども足の進むを覺えず萬葉集に伊香保の榛原と詠みしを思へば此邊昔し榛の木多かりしより山を榛名と名けしものに行くと十町餘谷川を隔てたる彼岸にツヅラ岩といふ奇巖あり高きと三十丈ばかり其形頸長き猿の如し、夫より數町にして榛名神社の裏門に達し門に入れば奇巖怪石突兀として起伏し溪水は潺々として諸所に聲あり、榛名神社は土地の郷社にして古しへは山に三千百坊を有せしとか慶長十九年當山法度の御朱印を南光坊より遣はされ幕府の比は別當金剛院東叡山に屬し神威も殊に高かりしが今は神官の守る所となれり本社には彦由支命を祭り創建年月社傳等は詳らかならず裏門を入り石段を登れば左手に神輿殿あり又登れば雙龍門あり棟は八棟にして椽に龍を彫れり其傍らに柱の如き巨岩屹然として立つ是を鉾ヶ嶽

といふ、此外社地はすべて巖石を切開きたるものと見え諸所に巨巖大石立並びて奇なること云ふべからず雙龍門より右折すれば即ち本社及び拜殿に達し本社の後にも亦巨巖空を衝て後ゆ其狀人躰の如く是を御影岩といふ頂上に幣を立て、神とし祭れり、再び元の道を歩み神橋、三重の塔、御祓橋等を経て隨神門に至る途中溪を隔て、鞍掛岩を望み其形天然の岩橋の如く又馬の鞍に似たり、隨身門を出で唐銅の華表を潜り石階を下れば榛名山村に出づ、戸數二百戸ばかりにして旅舎多し

總武鐵道

私設總武鐵道は東京市本所區を起點とし千葉街道に沿ひて中川、江戸川を渡り市川驛より稍や東に向ひ船橋、馬加の諸驛を経て下總の千葉町の北端に達し更に東北に折れ佐倉町の南六郷村に終る此の距離三十一哩四十四鎖とす、同會社にては尙ほ線路を延長して下總の東海岸

銚子港に達せしむべき計畫ありと雖も茲には既成線路近傍の案内のみに止め銚子等の記事は他日線路落成の時を俟ちて之を追補せん

● 本所停車場

此の停車場近傍に在る東京名所は二三にして足らず其の重立たるものは既に上編東京市中の部に掲げたれども茲には上編に洩れたる五六の遊覽すべき地を列擧して讀者の一覽に供せむ

龜戸神社 本所區の東端龜戸町に在り、府社にして正保二年の創建なり、社殿清洒にして回廊あり神樂殿あり、社前に大池を鑿ちて緋鯉を飼ひ池畔に藤架あり晩春の候に至れば紫白の花池水に映じ頗る美麗なり、又反橋あり妙義神社あり毎歲一月初卯の日は賽入群簇す

龜戸臥龍園 龜戸神社の東五町南葛飾郡龜戸村に在り、園中數百の梅樹を栽る枝幹槎枒として清香馥郁、雅客遊人の筈を曳く者多し、園内別に一樹の老梅あり臥龍梅と云ふ其幹曲屈して龍の蟠まるが如し

柳島妙見堂

龜戸村大字柳島、天神川の西岸に在り、寺は日蓮宗にして法性寺と號し妙見堂に妙見菩薩の像を安す、往時は壯麗を極めしも維新後祝融に罹りて稍や衰微せり、又堂前に星降りの松あり本尊始めて此樹梢に影降せしと云傳ふ、其北に割京店橋本あり

柴又帝釋天

陸前濱街道の南半里、金町村大字柴又に在り、寺を題經寺と號し寛永年間の創建にして梨板帝釋天王の像を以て本尊とす、縁起に白く當寺第九世日敬師在住の頃堂宇大に破壊す師深く之を歎き普く四方に勸化して終に其の堂舎を改造せんとする時梁上より此板本尊を得たり、元と當寺に高祖大士手刻の祈禱本尊と稱するものある由言傳へしが此時に至りて空しからぬを尊み即ち本尊とす云々

市川停車場

(千葉縣下總國東葛飾郡市川町)

市川町 江戸川の鐵橋を度り列車の止まる處を市川とす、市川は千葉街道の驛次として戸數四百戸を有し市街稍や繁盛なり、此驛より南二

里にして行徳に達し北一里半にして松戸驛に達す、停車場は其の東端(街道より右に入りたる處)字新田に在り、鎌倉大草紙には古へ此地に千葉氏の城あり康正二年築田某の爲めに侵奪せられし由を記したれども今は其趾分明ならず、町の北數町眞間村に左記の弘法寺あり

弘法寺

市川停車場より街道に出で更に北に折れ稚松の並木を爲す間

を過ぎ行くと七八町、其の正面に石燈の高く聳ゆるあり是れ即ち有名な弘法寺なり、日蓮宗にして武藏の池上本門寺に屬し元は弘法大師の遺跡たりしを建長五年日頂上人改めて今の宗となす、境内一萬五千餘坪にして一丘陵を爲し石燈を登りたる處に二王門あり雲慶作黒色の二王を安す、正面に釋迦堂あり本尊は富木常忍の作なりと云ふ、當寺は明治二十二年火災に罹り二王門、釋迦堂、鐘樓等は爾後再築せしものなれども祖師堂の如きは礎石の存するのみにて新築未だ成らず、著名なる眞間の楓樹は元と釋迦堂の前に鬱茂せしも今は枯槁して其跡を存せず、其西に方

丈庫裏等あり皆火災後新築せしものなりと云ふ
 眞間の繼橋 弘法寺の礎下田間の細流に架せし小板橋の名あり、古へ
 此邊に大河あり河中に柱を建て兩岸より板を架して相接續せしめたるが
 故に是名あり今存するものは其の名残のみ、萬葉集に歌あり「あのおと
 せず行かむ駒もか萬飾の眞間の繼橋やます通はむ」、其他眞間の浦、眞間
 の入江等の名ありて古歌多し古傳は利根川の流れ此處を過ぎて直ちに海
 に注瀉せしものなるべし

手兒奈堂 繼橋の北畔より東に入て百歩許の處に在り、本堂は六間四
 面にして銅瓦を以て蔽ひ正面に釋迦如來を安し手古奈の祠は其裡に在り
 婦人麻苧を納めて安産を祈れば其驗ありとて參詣するもの多し奥儀抄に
 云ふ是は昔し下總國葛飾眞間の井に水汲む下女ありあさましき麻衣を着
 て跣足にて水を汲む、容貌妙にして貴女には千倍せり朗月の如く花のあ
 めるが如くなり、こゝに女思ひあつかひて一生いくばくならぬよしを存

して其身を湊に投ず(以下略す)手兒奈は未婚女の稱あり

國府臺 市川町大字國府臺村に在る江戸川東岸の岡陵をしか呼べり、
 斷崖直ちに水際に壁立して古松之を點綴し鐘ヶ淵、羅漢井等の名今猶ほ
 存す、此地は有名なる古戰場にして文明十一年北總の土冠蜂起して臼井
 城に據るや太田道灌此地に陳して之を平らぐ、次に天文年間には足利義
 明此地に小田原の北條氏と戦ひて敗績し永祿年間には太田康賢等兄弟北
 條氏に反きて亦此地に戦ふ、今は陸軍教導團の兵營を此地に置き探勝家
 をして安りに觀覽せしめざるは遺憾と謂ふべし

總寧寺 同所教導團病院の北傍に在り、曹洞宗にして永徳三年近江國
 に草創し天正八年北條氏政命じて當郡關宿に移さしめ後寛文年間に至
 り徳川家綱指令して再び今の地に移轉せしむといふ、殿門を入りて右折
 すれば山門あり正面の佛殿及び客殿ともに茅葺にして佛殿には釋迦如來
 の像を安し右方の堂宇には彫陀沙羅菩薩を置く、國府臺過半の地は古へ

皆當寺の境内に屬せしが今は寺域僅かに八千坪餘、堂宇も亦頽廢に傾き殆ど往時の壯嚴を失ふに至れり惜むべし

○松戸驛 陸前濱街道の一驛にして市川停車場を距る一里廿町、水陸交通の要衝に當るを以て市街日に殷賑に赴き地に東葛飾郡役所、警察署等あり、其地の方東に在る高丘を相摸臺といふ天文年間足利義明の兵此地に屯集して敵陣を偵察せし處なりといふ、又此驛より流山へ二里十二町、小金町へ一里二十丁なり

○本行徳驛 市川停車場の南二里、江戸川の東岸にある名邑にして今は伊勢宿、關ヶ島、稻荷木其他の數村を併せて行徳町と稱す、元は江戸より成田不動へ參詣する者皆此驛を通過せしを以て最も殷昌を極め今は製鹽の業を營む者多し、又驛内に行徳八幡宮、神明社、徳願寺、善照寺あり、徳願寺には閻魔堂ありて運慶作の閻魔王を安し毎歲一月七月の縁日には佳人群集す、善照寺は淨土宗にて覺譽上人の開基なり

●中山停車場 (千葉縣下總國東葛飾郡中山村)

○八幡驛 是中山停車場を出で街道を數町後戻りせし處に在り、驛内に八幡神社あり郷社にして本社は松樹の翳鬱たる間に鎮し社前に銀杏の大樹あり之を神木といふ、本社は寛平年間宇多天皇の勅願に依り創建せしものにして譽田別尊を祭れり、社前街道の南側に竹林あり之を八幡不知の森といふ、人之内に入れば必ず祟あり或は其道を失ひて數日間竹林の外に出るとを得ずと古老は傳ふ、妄誕信するに足らず

法華經寺 街道より少しく北に入りたる處に在りて中山停車場よりは僅々七八町を隔つ、日蓮宗にして建長六年の創建に係り祖師日蓮百日間の説法を試みたる舊蹟なり、寺域一萬四千坪餘にして本堂、經藏、骨堂、五重の塔、鼓樓、常唱堂等の數字あり、祖師說法堂には祖師日蓮の彫刻せし一尊四菩薩の像を安置し堂宇は元と太田乘明の居館たりしを移せしものにして傳へて飛驒内匠の造る所とす、毎年三月十三日より十九日ま

法華經千部の讀誦を爲し又十月十三日には祖師の大法會を營み信徒の來賽する者數萬人、其熱鬧なる殆ど池上本門寺の會式に同じ。

妙正ヶ池 中山村より北の方三十町許り字千束に在り、傳へて云ふ文應元年日蓮上人富木常忍(法華經寺の開基)の設立する所の法華堂に入り百日間の説法を爲せし時地靈婦女に化して日々説法を聽聞せしが説法最終の日に至り忽然として消ゆ、後ち池靈を妙正と名け一社に奉じて之を祭れり云々、今は水涸れて池の大き稍や縮少せりと云。

曾谷妙見堂 中山停車場の西北一里餘、五常村大字曾谷に在り長國山安國寺と號す、本尊妙見菩薩の像は千葉町千葉寺の本尊と同木の作なりと云ひ崇信する者多し、又境内に王義之の宮あり華表の額に晋王公廟とあり鳥石葛辰の筆にして傍らに石碑を建つ向の謂れなるを知らず。

勝間田ノ池 停車場より出で、千葉街道を東に赴くと十四五町、葛飾村大字本郷に在り、萬葉集に「勝間田の池は我知る蓮なししかいふ君が

髭なきが如し」とあるは此處なり、因に記す勝間田池の所在地に就ては諸説區々にして定まらず一書には山城添下郡とし清輔抄には美作とす茲には八雲御抄、類字名所和歌集等の説に據る。

●船橋停車場 (千葉縣下總國東葛飾郡船橋町)

○船橋驛 は東京千葉間の要路に當れる最も殷賑なる驛次にして市街の長さ東西凡そ二十町、戸數凡そ一千戸あり、傳へて云ふ姓古日本武尊東征の時此地に船橋を架して海神を祈れる爾來舊名の湊郷を改めて船橋と稱したりと、又同地の海濱に遠ヶ湊といふ處あり平將門の愛妾桔梗の前將門滅亡の後ち都へ還らんも懶しとて此地に閉居せしが終に身を海に投じて死せり遠ヶ湊は其の舊趾なりと。

意富比神社 船橋市街の中央、街道の左側小丘の上に在り、祭る所天照皇太神、豐受太神にして相殿二座を八幡、春日の二社とす、草創は景行天皇の四十年にして日本武尊の勸請に罹り清和天皇の貞觀十三年奉

幣使を派遣せらる、天喜年間源賴朝の社殿を再興せし以來は故ありて社領を没せられ殿宇いたく頽廢せしを天正以來社領舊に復し徳川氏伊奈忠次に命じて本社を造營せしむ、今は縣社に列し境内幽邃にして自から神さびたる趣きあり、毎年四月大祭を執行す

慈雲寺 船橋驛の北の方に在り、五山派の禪刹にして鎌倉建長寺第二世佛光禪師の開基に係り本社釋迦如來は行基僧正の作、脇士は文殊普賢なり、往時は堂宇宏壯なりしも永祿年間里見氏の兵燹に罹りて燒失し又當寺の梵鐘をも國府臺の陣へ奪はれしが誤ちて利根川へ沈めたりとて今其處を字して鐘ヶ淵を云ふ(隅田川の鐘ヶ淵とは別なり)

●幕張停車場 (千葉縣下總國千葉郡幕張村)

幕張村大字馬加驛は停車場の南に在りて千葉街道に衝れり、戸數二百戸許の一村落にして古へ千葉氏の族馬加康胤の城を築きし處なり、隣村武石(同じく幕張村の大字なり)にも城壘ありしが二とも其趾分明ならず

又此地の西十五町に鷺沼(今津田沼村に屬す)あり源賴朝房總二國を徇へ再舉を謀りし時旅館に充てたる地なり

稻毛海水浴 停車場の東一里檢見川町大字稻毛に在り、地は街道の北傍稍や小高き沙原中にありて前は街道を隔て、東京灣を望み遠淺にして波靜かなる處即ち海水浴浴を取るに適す、旅館を海氣館といひ傍ら割烹の業を兼ね松林の間に數棟の離れ座敷を設け本館よりは長廊を謀して浴場に相往來す、其の海岸は大磯、逗子等の如く外洋に面せざるが故に潮水清潔ならずと雖も波浪高からざるを以て毫も危険の憂ひなく眺望頗る快豁にして夏季浴客の來り遊ぶ者多し

●千葉停車場 (千葉縣下總國千葉郡千葉町)

○千葉町 千葉縣廳の所在地にして東京灣の海岸に位し東西二十町餘、南北三十町、今は寒川、登戸、黒砂、千葉寺等の諸村を合せて戸數凡そ三千、人口凡そ二萬を有し土地平坦其の東南部に二三岡陵の起伏する

のみ、縣廳は宇市場町に在り其他地方裁判所、師範學校、中學校、警察署、郵便電信局等あり、元は千葉氏の城邑に屬し其滅亡後は大に衰微に歸せしが縣廳設置以來稍や舊時の繁盛に復するを得たり、町内及び近傍の神社佛閣等は項を更めて左に掲げし

猪の鼻臺 千葉町の東南に横はれる小丘にして千葉氏歴世の舊城趾なり、千葉氏は元と高望王に出で數世の孫小次郎常將初めて此地に城きしが馬加康胤千葉氏の後を襲ぐに及びて城を本佐倉に徙す、丘上に稚松雜茂し之に登臨すれば四望眼界を遮るものなく風景頗る佳なり

君待橋 千葉町の南端寒川村長州に在り、一小板橋に過ぎざれども其名を得たる所以のものは往古藤原實方陸奥へ下向の途次偶々此地を過ぎて「寒川や思ヶ浦にたつ煙り君をまつ橋身にを知らるる」の詠ありしが爲めなり又曰く治承年間千葉介常胤源賴朝を此橋上に迎ふと

千葉神社 同町字院内に在り、縣社にして天御中主尊を祭り長保年間

の創建なり、今より十餘年前祝融に罹りて、拜殿どもに今は假建なり、爾來氏子等贖金して再築の資を投じ棟梁等の材木を集め其彫刻も既に終りたるに之を假小屋に投じたる儘今に至るまで建築の工事に着手するを見ずと云ふ、怪しむべし

千葉寺 同町の南端字千葉寺(停車場より三十町)に在り、坂東三十三所觀音の靈場にして海上山觀音院と號し本堂、觀音堂、其他數棟の堂宇あり、境内には櫻あり楓あり春秋ともに女士の來り遊ぶ者多し

大巖寺 千葉停車場の南凡そ三十町蘇我野村大字生實郷に在り、淨土宗にして開山を道譽上人と云ひ地方有名の巨刹なり、境内に不動堂あり武田の不動明王を安す毎月七日、十七日には寡人群參す(編者云ふ千葉町より佐倉に至る中間新設の四街道停車場あれども近傍一顧の價ある名勝に乏しければ次には直ち佐倉停車場に移るべし)

●佐倉停車場 (千葉縣下總國印旛郡根郷村)

○佐倉町 堀田氏の城邑にして停車場は町の南十餘町(根村郷)の田
 圃中に在り、地は二の丘陵を爲し市街は東西一里餘に亘ると雖も南北甚
 だ狹隘、戸數凡そ八百、人口凡そ三千八百を有し町内に第一師團司令部
 兵營、郡役所、警察署等あり、將門山古城趾は同町大字將門町の丘上に
 在り、初め將門此地に城き後ち輔胤再築して之に居ると今も城趾に將門
 の靈を祭りたる小祠あり、海隣寺は同町大字錦木に在り時宗にして文治
 年間の章創に係り本堂は千葉常胤の念持佛たりし阿彌陀如來なり
 宗吾靈堂 佐倉停車場近傍にて旅客の必ず一覽すべきは義民木内宗吾
 の靈堂と成田山不動なり、宗吾靈堂は成田街道より少しく左に入りたる
 公津村台方に在りて停車場より凡そ一里二十町、成田山參詣の途次之に
 立寄るとも僅かに十餘町の迂路に過ぎず、先づ成田街道の本佐倉、酒々
 井を過ぎ字中川より左に折れて稍や印藩沼の岸に近づき徑路を行くと半
 里餘にして人家四五十戸相集まりて小村落を爲すあり即ち台方なり、寺

を東勝寺と云ひ寺域凡そ二千坪、正面に本堂あり凡そ八間四面にして銅
 瓦葺、四方棟、其背後に奥の院あり宗吾の靈牌(德滿院涼風道閑居士)を
 安し左右に其の四子彦七、徳治、乙治、徳松の位牌を置く、本堂の右方
 に新築の五靈堂あり宗吾と共に罪に座し追放に處せられし瀧澤村六郎兵
 衛、高野村三郎兵衛、下勝田村重右衛門、千葉町忠藏、小泉村半十郎五
 人の靈を祭ると云ふ、大法會は宗吾が磔殺せられし日即ち八月三日を以
 て執行し前夜より待夜と稱へ來り賽する者頗る多し
 成田山新勝寺 下埴生郡成田町に在りて成田山明王院と號す、佐倉停
 車場を去る三里餘にして人力車に廿五錢を賃すれば一時半にして達すべ
 し、前記の中川よりは道少しく瓜先上りとなり成田町に近づくと隨ひ左
 右杉樹の繁茂せる間に護摩場の石碑數基を見るべし、かくて成田町に入
 り敷石を連ねたる道を下れば直ちに山門の前に達し其兩側旅舎多し、就
 中海老屋久太郎、飯田屋嘉右衛門、小川久太郎、大野屋市平、若松屋貞

治、駿河屋磯吉、菱屋庄兵衛等は家屋宏壯なり、縁起に曰く成田山親護新勝寺の不動明王は弘法大師の作にして往古は洛陽の西高尾山眞言寺に在り、人皇六十一代朱雀天皇の御宇平將門東國に於て權威を振ひ奢を擅まよにし新都を相馬郡に建て、自ら平親王と號す、天皇追討の宣旨を下し諸寺の高僧に命じて降敵の秘法を修せしむ、時に廣澤遍照寺の僧正寛朝は此の尊像を奉じて成田の里に來り茲に護摩を修すると一百日其功德空しからずして敵軍忽ち敗績す、後ち此處に本尊を安置し勅命を奉じて堂宇を造營す、是れ當寺草創の由來なり、山門を入り石礎を上れば正面に本堂あり賽路の近傍は各講中より奉納せし數百基の石碑あり其背後に額堂、奥の院、光明堂、本堂の右に三層塔、鐘樓、開山堂、經藏等あり堂宇壯麗亦關東屈指の靈場なり

甲武鐵道

甲武鐵道は東京市飯田町より起り牛込、市ヶ谷、四谷、信濃町四停車場を過ぎて新宿に至り是より西を指し一直線に南多摩郡八王子に達す此の延長二十六哩七十六鎖とす、右の内飯田町より新宿までは所謂市内線に屬し近傍の神社佛閣多からざるにあらずと雖も東京市内の案内は別に其書のあるあり茲に之を纏述するは繁雜に堪へざるを以て直ちに新宿より案内の筆を起すべし

●新宿停車場 (東京府武藏國南豐島郡角筈村)

此處より二方に岐るゝ支線あり一方は西北に岐れて赤羽停車場に至り東北鐵道に絡連し又一方は南方に岐れて品川停車場に至り東海鐵道に聯絡す故に東海東北の二幹線は此の支線に依て繋がるゝものぞ知る可し

○内藤新宿 此驛の景況は東北鐵道の部に明記したれば就て看るべし

又近傍の名所舊跡は都て東海線新橋の部に譲りて別に記さず

●中野停車場 (東京府武蔵國東多摩郡中野村)

○中野町 是新宿を距る二哩六十四鎖の所に在り東京府下豊島郡と多摩郡との郡界にして今は東多摩郡に屬せり往時は此より二十町許り北の方阿佐ヶ谷の地に明王山寶仙寺といふ眞言宗の大刹ありしも大永の比兵燹に罹りて今はあらず其外中野七塔などといふ舊跡もありし由なるが今は何れに在るや知り難し或は曰ふ中野通りの右側叢林の中に三層の塔ありこれ七塔の一ならんと
堀の内祖師 中野停車場より十五六町の南堀の内村日圓山妙法寺に在り本尊は日蓮上人の像にして世に除厄の御影と稱す日蓮宗一教派に屬し堂塔の壯觀東都屈指の大伽藍となす、往時は碑文谷の妙法華寺に在りしを元祿の比故ありて法華寺を天台宗に改めしかば此像を當寺に移したりといふ諸國より信者の參詣引もせらるす就中毎年十月十三日には會式を執

行するを以て當日の群集名狀すべからず

新井薬師 中野停車場より北の方五六町新井村の梅稱院に在り俗に子

育薬師と呼び參詣する者多し毎月十二日を縁日とす

幡ヶ谷不動 中野停車場より北の方十町許りの所に在り眞言宗 光明

山莊嚴寺に安置す本尊不動明王の像は智證大師の作にして往昔江州三井

寺を創建の時彫刻の靈像なりと云へり東京よりの順路は汽車に乗らざる

方却つて便利なるべし

●荻窪停車場 (東京府武蔵國東多摩郡荻窪村)

荻窪村 是上荻窪下荻窪の二つに分れ停車場は下荻窪に在り一小村落にして記すべきほどの事なく唯近傍に井の頭の辨財天あるのみ

井の頭辨財天 荻窪停車場と境停車場の間牟禮村に在り故に東京より

は荻窪にて降り八王子よりは境にて降る可し此間の道程何れよりしても

二哩以上とす此に長さ西北より東南へ曲りて三百歩許り巾百歩餘りの大

池あり之を井の頭の池と唱へ神田上水の泉源なり池中に清泉涌出する所
 七ヶ所ありて如何なる早魃にも涸る事なしとて世に七井の池ともいふ辨
 財天は其池の中島に宮居す本尊天女の像は傳教大師の作なりといふ傳へ
 聞く正慶年間新田義貞鎌倉と對陣の時當社に軍勝利を祈念し北條家を亡
 ぼしたりと境内には御楊枝の柳(聖天堂と後に在り)臥龍の藤、三ツ柳な
 どあり西北の丘陵を今御殿山といふ此地最も静閑にして樹木多く暑中納
 涼には最も妙なり

●境停車場 (東京府武蔵國北多摩郡境村)

境村はまた一村落にして記すべき事なし唯是より南二十町ばかりにし
 て名高き深大寺村(今は深大村と改む)あり

深大寺村 は何が故に名高きか土地には深大寺(今は頽廢して僅かに
 一草庵を存す)といふ一小有るのみにして觀るべきもの一もなし其名
 高き所以は此地より産出する蕎麥を深大寺蕎麥と稱へ都人士に賞玩せら

るに在り然とも此地に於て最も蕎麥に適する地面は僅々六畝歩許りに
 して素より都人士の口腹を飽しむるに足らず唯その名高きが故に茲に附
 記するのみ

小金井の櫻 多摩川上水堀兩岸の芝塘に在り櫻樹連亘小金井村外九ヶ
 村に及び西は小川村に起り東は境村に盡く其間凡そ五十七丁餘ありとい
 ふ此櫻は享保年間郡官川崎定孝なる者台命を奉じ和州吉野山、常州櫻川
 等の地より移植し當時は其數一萬餘株の多きに達せしとぞ、近年甲武鐵
 道の開くるに及び境村近傍の有志者相謀りて停車場最寄まで櫻花を連續
 せしめんと欲し新樹千餘株を栽繼しかば更に一層の美を添ふるに至れり
 此花毎年四月十五六日より三十日比までに開くを通例とし墨田、飛鳥山
 より遅るゝ事四五日なり最佳境は小金井橋を中心とし西は喜平橋、東は
 梶野橋までとす、開花爛熳の時小金井橋に起て眺望すれば雪とちり雲と
 まがひて一日千里前後盡るところを知らず千蔭翁の歌に「聞わたる天の

河原か咲花の雲の中行く水のひとすぢ」誠に能くその光景を寫せしものと謂ふべし東京より行くには境停車場にて降り北五六丁にして直ちに花の所に至るべし故に此處より見物して次第に西に至り國分寺停車場まで上り列車に乗りて歸京するも好く又之を顛倒して國分寺に降り境に乘るも好し何れにしても損益なかる可し又飲食店は小金井橋畔に柏屋外數戸あり就て飲べく憩ふべし

○田無町 是境停車場より北廿五六町にして青梅街道中屈指の驛市なり戸數五百、人口三千餘、一六の日には古着其他の市あり最も多く麥粉を製し東京へ輸送する者日々數十駄の多きに及ぶといふ

●國分寺停車場 (東京府武蔵國北多摩郡國分寺村)

醫王山國分寺 國分寺停車場を距る南七八町のところにて在り藥師の像を安置す堂内に金光明四天王護國之寺と題する額を懸けたり、聞ならく聖武帝の朝毎國に國分寺を置く曰く金光明四天王護國之寺、曰く法華

滅罪之寺、而して水旱の患を禱禳し災兵を止め疾病を遠ざけ國家安全を祈らしむ即ち國分寺は金光明四天王護國之寺なりしが元弘の兵燹にかゝりて焦土となり其後今の小利を建立し國分寺を村の名として舊跡を存したりと云今尙ほ古瓦の缺損せるもの徑畔に堆積し又は路上に散在する者甚だ多し其質堅牢にして石の如く布目の跡あるを以て之を布目瓦と稱へ此處に遊ぶ者持歸る者多し又巨石の半は埋もれて田圃の間に點々たるを見る是れ所謂る七堂伽藍の礎石なりしといふ是より東五六丁を距て、貫井辨財天の祠あり

貫井辨財天 是貫井村に在り(今は小金井村に合し大字貫井といふ)祠は丘の半腹に在り境内には樹木繁茂し丘上に登れば遠く富山國嶺の諸山を望み景色絶佳なり又小池あり鯉魚游泳し常に清泉涌出し流れて瀑布となるを以て夏は暑さを避るに好し是より南二十丁許にして府中驛あり又大國魂神社あり

○府中驛 甲州街道中八王子に次ぐの市驛にして戸數一千餘、人口六千餘、市を別つて十とす曰く神戶、曰く新宿、曰く番場、曰く片町、曰く屋敷分、下河原、京所、八幡宿、分梅、芝間、町内に北多摩郡役所あり警察署あり郵便局あり又丸山公園あり神社佛閣にして名ある者は曰く官幣小社大國魂神社、曰く高安寺、曰く安養寺、曰く明光院、曰く善明寺、曰く稱名寺等なり貸坐敷七戸あり娼妓藝妓等を養ふ毎月一七の日市を開き古着生糸其他雜品を鬻ぐ旅店の重なるは中屋、松本屋の二軒にして何れも大國魂神社の前に在り共に料理を兼業す夏時多摩川に鮎漁を試みんと欲せば此の兩家にて案内すべし

大國魂神社 府中驛の中ほど新宿と神戶の間南側に在り官幣小社にして初め武藏國惣社六所宮と稱へ本社祭神は大己貴命なりといふ其鎮座次第を聞に中殿には大國魂大神、左右に御靈大神、國內諸神、又西殿には六宮杉山大神、五宮金佐奈大神、四宮秩父大神、又東殿には一宮小野

大神、二宮小河大神、三宮氷川大神等とす宮殿は奥殿拜殿共に結構壯麗なり、境内は頗る廣濶にして老杉鬱爾として枝を交へ其中に一松樹を見ず此神松樹を思み給ふと云ひ傳へ郷人正月に松飾りを爲さず竹のみを用ふ奇と謂ふべし社頭の大門は府中驛を横ぎり北の方八町の長きに突出す昔しは其止まる所るに一の華表ありしと云へど今はあらず八丁の間槻の並木あり皆數百年の老樹なり傳へ曰ふ康平五年源賴義義家奥州安倍貞任宗任一族征伐發向の時當社に詣で軍の勝利を祈願あつて夷賊平治凱歌の時報賽として栽うる所なりと云ふ、又毎年五月五日大祭を執行す之を提燈祭りと云ひ其式頗る盛んなり

谷保天神社 甲州街道谷保村に在り府中大國魂神社より西の方凡そ壹里許りの處るなり、本社祭神は天滿大自在天神、一座神軀は菅家第三嗣菅原道武朝臣の手刻にして社殿に懸る額面天滿宮の三字は後宇多天皇勅世尊寺經朝卿の筆なりと云ふ又天曆の時村上希狗犬一雙を寄附したまふ今

に存せり本社の後、に道武朝臣の靈社あり、境内は樹木鬱蒼として繁茂し最も幽邃の地なり。

百草園

府中驛より西南壹里半許、南多摩郡七生村、字百草に在り、元は

慈岳山松蓮寺と稱する禪林なりしが、明治初年の頃、火を失して堂塔悉く灰

燼に歸し、後遂に廢寺となり、荒蕪に委せしを、近時青木某氏の所有となり、庭

園を修理し、櫻樹を栽ゑ、頗ぶる風致を添へたり、由て百草園と號す、園内高き

所に清涼臺、八州ヶ丘等あり、又松蓮寺の碑あり、蓋し其舊跡なり、其外二王塚

(松蓮寺の舊地より東南五丁ばかり山間の小高き所、松樹十株餘りある

所ををいふ) 芭蕉塚、雨乞地藏、天平ヶ丘等の舊跡あり、西の方山の半腹

にある八幡宮は、康平五年源賴義義家奥州征伐の時、山城國男山八幡宮の社

檀の土を穿ちて石瓶に盛來つて一字の社を造營して、勸請せしものなりと

云傳へり、調布の多摩川は、眼下を流れて宛も一帯の布を晒せしに異ならず

最も、敵望に富み富士筑波其他八州の諸山を一目に集むる等、風色絶佳なり

又園内に養生館といふあり、個は園主青木氏の別荘なれども、客の望みに依りては其坐敷を貸し、又一宿を許すといふ別に喜樂亭と呼ぶ小料理店あり、客の飲食を辨す。

立川停車場

(東京府武蔵國北多摩郡立川村)

立川村は多摩川の沿岸に在る一小村なり、往昔上杉成氏と上杉憲顯と戦ひ

し、舊跡なりといふ、此地鮎漁に最も便なるを以て、甲武鐵道の開設以來、都下

の人々此地に遊ぶ者著るしく増加せり、依て先づ漁鮎を案内せん。

多摩川鮎漁 武蔵の多摩川は之を調布の多摩川といふ、此川香魚を産

し、毎年初夏の頃より、晩秋の頃までを以て、漁獲の好時期とす、而して鮎漁の

案内を爲す家多くあり、雖も其内停車場前丸芝支店と招牌出したる茶店

を以て最も、茲より東十二三町にして丸芝本店あり、此家は土地にて有名

の農家なるが、年來鮎漁の事に慣れたるを以て、甲武鐵道開設以來、夏季は漁

り、一切の案内を爲し、其奥坐敷を客間に充て、料理をもなせり、又鮎漁の仕方

に數種あり曰く鵜飼、曰く羽網、曰く笠、曰く投網、曰く友釣、別に屋根舟あり、屋根舟には客十人を容れ船中にて酒を酌み且捕り得たる香魚を直ちに料理して食するを得べし、就中最も興あるは羽網にて多き時は一回四五十尾の鮎を捕ふる事ありといふ今丸芝にて定めたる鮎漁賃金を聞くに左の如し

- 一鵜飼(引網付漁師三人添) 一組金一圓五十錢 一羽網(待網付漁師八人添) 一組金二圓五十錢
- 一笠(引網付漁師二人添) 一組金一圓 一投網(漁師一人添) 一組金二圓五十錢
- 一友釣(漁師一人添) 一人金三十錢 一屋根舟(船頭二人諸道具付) 一組金一圓 一反金五十錢

此の漁鮎は立川のみに限らず甲武線中國分寺停車場を降り府中驛に至り同驛の案内所に就き是より凡そ十町の南是取村近傍(即ち立川の下流)に於て爲すも可なり又立川を降る日野停車場を降り日野河原に於て爲すも可なり唯だ遊ぶ人の便に任すのみ

普濟寺 立川停車場を距る五六町五川の南岸芝崎村に在る古刹なり本尊は正觀世音、左右に十六阿羅漢十太弟子等の木像を安置す中興大檀那

は立川宮内大輔と稱す當時境内北の方は往古立川宮内大輔の宅地たりしとなり數年合戦の地にして今猶林中に首塚と稱する物あるは其の古跡なりといふ其寺の庭より多摩川を望めば其風色百草園に在りて觀ると甚だ相似たり殊に鐵橋は眼下に在りて汽車の走るは長蛇に似たり此寺近頃客殿を修理し客の望みに應じて二宿を許すと聞けば二日の漁りに飽足らぬ人は此に來つて遊ぶも妙ならん

●日野停車場 (東京府武藏國南多摩郡日野村)

日野村 は甲州街道の宿驛にして多摩川の南岸に在り立川村とは僅かに多摩川の一帯水を隔て其間二哩六鎮に過ぎず戸數五百、人口二千餘あり毎月六十の日市を開き米穀生糸繭雜品を賣買す此地又漁鮎に適す料理店玉川亭に於て案内すべし(漁業賃金は立川丸芝と同じ)近傍名勝舊跡の案内すべきなければ直ちに八王子に移らん

●八王子停車場 (東京府武藏國南多摩郡八王子町)

○八王子町 甲武鐵道の極端にして府下南多摩郡に在り町數十七、戸數五千餘、人口二萬許り東京より甲府に至るまで隨一の繁昌地にして市街の長さ三十町あり市中には地方裁判所、郡役所、警察署、郵便電信局、織物市場、生糸市場、織物講習所、蠶糸業取締所、茶業商會、國立私立の銀行其他三座の劇場ありて常に興行せり物産は織物を最とし生糸茶之に續ぎ先づ織物の重なる物を舉れば一樂織、糸織、博多帶地、縞八丈、八反、浮織、飾系織、明仙、絹木綿交織、其他甲斐絹、米國向のハシカチーフ等にして是等の物を製造するには重に島田糸を用ひ、坐繰、器械などの糸は皆横濱に出して外國へ輸出し其高一ヶ年三千捆(一捆は九貫目餘)以上に及ぶと云ふ。旅店の重なる者は角屋喜兵衛(横山町)倉田屋庄右衛門(同上)山上十郎左衛門(八日市町)旅館代は通常二十五錢なり。料理店は若松、萬林を以て最とし西洋料理には喜樂亭(横山町)あり。子安明神 八王子停車場より二三町北に在る古廟にて俗に此處を大明

神といふ境内には凡そ八百年も経たりといふ観の大樹數多あり、此内に廣き古池ありて絶えず清水湧出し池に臨みて茶亭あり此處より四方見晴し好く閑靜云はん方なければ夏時は納涼又は螢狩に妙なり。散田眞覺寺 八王子停車場より南二十町餘、小高き丘の中ほどに在りて境内櫻樹多く彌生の頃は觀花の人群集す且つ風景に富むを以つて平素と雖も杖を曳く者多し又五月頃には毎年蛙合戦ありとて之を見んと來る者多しといふ。高雄山 八王子停車場より西の方二里十五町、南多摩郡上柵田村に在り夫より登り三十町頂上に寺ありて藥王院といふ、飯綱善神の祠は峻峻なる石階を登りつめたる處ろに在りて彫刻巧を盡し彩色最も美なり石階を下りて左の方に護摩堂、藥師堂、大日堂あり、右に藥王院の坊あり境内には老杉枝を交へて空を蔽ひ又眺望を遮ざるを以て更に見晴しなく四願齋爾として宛然仙境に入るの思ひあり又此山中に二個の瀑布あり一は

琵琶瀧と云ひ飯綱善神より西南へ狭き山道を降ると十六七丁許りのとこ
るに在り瀧の高さ丈餘、傍らに茶店二軒あり休憩に便ず、又一は蛇の瀧
と云ひ本道を降ると十町餘にして左方に折れ更に峻坂を降る十町餘の所
るに在り共に神經病を癒すに効ありとて發狂人の來り浴する者多し

川越鐵道

川越鐵道は甲武鐵道の國分寺停車場より分岐して北に向ひ埼玉縣入間
郡川越町に達するものにして延長十八哩四十鎖、其間小川、東村山、
所澤、入曾、入間川の五停車場あり

●小川停車場 (東京府下武藏國北多摩郡小平村大字小川)

小川村は青梅街道の一驛にして田無町を距る西一里三十町に位し今は小
平村に屬す、近傍に名所舊跡なし

●東村山停車場 (東京府武藏國北多摩郡東村山村)

停車場は同村大字野口にあり、其北方北多摩、入間郡界に一丘陵あり東
に亘ること二里餘、之を狭山といひ里人は尾引山と稱す、家隆卿が「と
もしする狭山の峯の狩衣秋にもまさる袖の露けさ」と詠せられしは茲な
り、又野口の西北十八町の處に古塚あり老松一株其上に成長し里人は呼
んで將軍塚と云ふ、元弘三年新田義貞義兵を擧ぐるに際し越後、信濃の
勢を此地に集めたる舊址なりとぞ

●所澤停車場 (埼玉縣武藏國入間郡所澤町)

○所澤 は入間郡の南端秩父街道に衝れる一市街にして戸數凡そ八百
戸を有す、此地多く綿布を産し毎戸概ね紡織に従事す、驛の入口字河原
宿に新光寺あり新義真言宗にして建久年間の草創に係り本尊聖觀音は行
基僧正の作なり、又藥王寺あり曹洞宗にして元弘年間新田義宗の創建な
りと云ふ、又此地は川越町を距る南三里三十町なり

永源寺 所澤の南半里許り、久米村八國山の北に在り、曹洞宗にして

龍ヶ谷の竜隠寺に屬し天文年間大石定重の建つる所にして開山を長純禪師といふ、境内幽邃にして本堂には開基大石氏の位牌を安し又一の洪鐘あり當寺の住持雪巖和尚が土中より掘出せしものなりとぞ

小手指原古戰場 小手指原大字北野の西に在る平原にして所澤停車場より西凡そ一里二十町を隔つ、建武年間新田義貞が櫻田貞國を敗り正平七年其子義宗が足利尊氏を困めし處なり、太平記に曰く正平七年閏二月二十日の辰の刻に武藤野の小手指原へ臨み給ふ一方の大將には新田武藏守義宗五萬餘騎を五手に分ち一方には新田左兵衛佐義興を大將にて其勢都合二萬餘騎四方六里に扣へたり、一方には脇屋左衛門佐義治を大將として二萬餘騎是も五ヶ所に陣を取り敵(足利)小手指原にありと闘えければ將軍十萬餘騎を五手に分ち中道よりを寄せられける云々(下略)

物部天神社 同所大字北野にあり(停車場の西二十五町)郷社にして饒速日命を祭り菅公の靈を合祀す、傳へていふ景行天皇四十年の創建にし

その後ち天正十八年前田利家大に社殿を造營すといふ、本社は一丘陵の上に鎮し松樹鬱々として之を圍み拜殿の前に古梅樹あり大納言梅といふ前田利家の手栽に係るものなりと
山口觀音堂 前記の天神社より西南の方半里ばかり山口村字新堀に在り、興言宗にして東京の護國寺に屬し五庵山眞光寺と號す、寺傳に云ふ昔し聖武天皇の御宇行基僧正此地に巡錫して觀音の像を刻し後ち弘仁年間弘法大師羽州湯殿山に行脚の途次茲に一字の草堂を建立す是れ當寺創建の初めなりと、堂宇は皆茅葺にして二王門、通夜堂、本堂、庫裡等あれども今は大に頽廢とり

●入曾停車場 (埼玉縣武藏國入間郡入間村)

入曾停車場は入間村の内大字南入曾にあり、茲より三十町にして扇町屋驛に到るべし、近傍に名所古跡の案内すべきものなし

●入間川停車場 (埼玉縣武藏國入間郡入間川村)

入間川驛 是州越前書梅に至る街道の上驛にして入間川の東岸にあ
る。市街は南北凡そ八町許りにして戸數凡そ六百戸を有し商業稍や繁盛
なる又此地より川越へ二里十町、青梅へ四里なり

堀兼の井 入間川停車場の東一里堀兼村大字堀兼に在り、江戸名所圖
繪に曰く淺間の宮の傍らにありが故に是を淺間堀兼と號せり、此社前は
古への鎌倉街道にして上州信州への往還なり今の宮は慶安中松平伊豆守
の建立なり、淺間の祠の四なる地ありて中に方六尺ばかりに石を以て井
桁とし半ば土中に埋れたるものあるを堀兼の井と稱せり傍らに川越秋元
侯の家土岩田某が建つる所の碑あり高さ五尺餘其文左の如し

此凹形之地所謂堀兼井之蹟也。恐久而遂失其處。因石井欄置湖中。削
碑而建其傍。併以備後監。里語堀而難得水故云爾。兼通難未知只從俗
耳。實永成子年三月朔。

土人傳へて云ふ往古日本武尊東征の時武藏野に水乏しく諸軍渴に及びけ

れば尊村民をして此處彼處に井を掘らしむるに終に水を得ざれば龍神に
命じて流れを引かしむ云々

●川越停車場 (埼玉縣武藏國入間郡川越町)

○川越町 是武藏の北部に於る有名なる一市街にして市街の數三十四

東西凡そ十三町、南北凡そ廿六町、戸數三千五百戸を有す、此地は元と
山内房顯の據る處にして太田持資も亦此に治し徳川氏江戸に移るに及び
て酒井重忠を封じ明和の初めには松平朝矩、次は松平康英の治所となり

明治初年には川越藩を置かれし處なり、町内に川越城址、郡役所、區裁
判所、警察署等あり去る明治六年大火ありて今や多く新築の家を見る鐵
道の開通と共に古への繁況を呈するも亦遠きに非ざるべし

三芳野神社 川越町の北隅舊城址の内に在り、縣社にして素盞鳴尊、
奇稻田姬命を祭り太田持資本城を築くに當り守護神として祭祀せしもの
と云ふ、社殿には本社、幣殿、拜殿、神樂殿、神饌所等にして境内は小

高き丘陵の上に位し且櫻樹數百を植う、春日來り觀る者多し
 喜多院 同町の南端字小仙波に在り天台宗にして天長七年の創建に係
 五慈覺大師を開山とす、境内に東照宮あり社殿壯麗を極む又一株の古櫻
 あり徳川三代將軍の手栽に係るものにして幹は二圍に餘り春風駘蕩花の
 亂發する頃は頗る美觀なりと
 蓮馨寺 同町大字松郷にあり淨土宗にして天文年中の創建に係り大道
 寺坂繁の母寶池院蓮馨大師の開基なり、本堂は八間四面にして本尊阿彌
 陀佛を安置し其他の堂宇皆な壯麗を極めしも惜い哉明治二十六年の大火
 に際して悉く焼失し今は鐘樓のみを存せり
 入間の里 今はその處を詳かにせず、武藏名所考には古へ入間郡を廣く
 として云へるなるべしと見たり、古歌あり今之を略す

青梅鐵道

青梅鐵道は甲武鐵道の立川停車場より右に分れ多摩川の右岸に沿ひて
 青梅町に達するものにして此延長十一哩三十三鎮の短線路なり、其近
 傍名所舊跡に乏しと雖も左に二三の案内を爲すべし

●拜島停車場 (東京府武蔵國北多摩郡拜島村)

拜島は八王子より川越町に至る街道の驛次にして一小市街を爲せり、此
 地に大日堂あり、高丘の上に峙ち老樹亭々境内に鬱茂し風色頗る住なり
 此地も亦鮎漁に宜しく旅舎にして料理屋を兼ねるもの二三戸あり皆鮎漁
 の案内を爲すべし

●羽村停車場 (東京府武蔵國西多摩郡羽村)

此地は多摩川の東岸に在りて多摩川上水の分る處なり、之を羽村堰と
 云ふ、承應年間徳川家綱渠を穿ちて多摩川の水を江戸市中に引かしめ後

め明治十五年石を疊みて水門を改築し開門を設け開閉を自由にす、其の近傍風色絶佳にして小赤壁の觀あり、又傍らに水道の碑を建つ文長けれども能く其顛末を明かにするを以て左に全文を掲ぐ

水道碑記

詩曰瞻彼洛矣。維水泱々。聖人之設都也。以水爲急。蓋以人須水不可一日缺也。德川氏之開府于江戸也。諸侯會同。商工簇聚者殆一百萬。地窄不能盡容。乃填海爲陸。而地無清泉民顛渴。將軍秀忠深患之。乃親騎旁索四郊。多摩郡中有一治水醫沸。嘗之味甘。大悅乃命工人浚汚泥鑿田畝東導四里有半。至關口村置閘築堰。導至小石川。埋石地下作閘溝。驗神田川至小川街。分爲兩岐。一過東神田瀉柳原溝。一至神田橋分注城內百邸。本流險龍閘橋過常盤橋至京橋。此間分二派。一注銀街馬喰街入淺草溝。一注本街折至堀留。過小舟小網街至箱崎入大河。人民各捐私金自引地下。閘溝如布網千區百街無所不注。是爲神田水道。

將軍自命曰井頭。謂市井之源也。而水猶未足。將軍家綱更開玉川水道。玉川發源甲斐山梨郡東流三十八里入海。家綱摺市尹神尾備前幹事。備前舉川傍富民莊左衛門清右衛門二人。不別設官吏。二人精工事。測道遠近度地高低。豫算經費六千五百兩。備器具傭役夫承應三年。既肇羽杜鑿渠八尺廣二尺設閘若干。以備暴溢之虞。東導十四里。至四谷費用不足二人以私金繼之不復真求(中畧)家綱嘉賞賜二人姓玉川。給祿二百石列之士伍云。嗚呼水道之益于都下實莫大。早不枯雨不溢。源源混々雖然不止三百年于今。民不病一日之渴。且此水流遠性和。百方人民不病癘疫疥癬爲惠也大。如玉川二氏益力于此不少爲勞。又捐金無吝色。其事爲浚法其利及百世。可謂偉也。若神田水道雖有粗記之者。不悉費金多寡及役夫之數。不可得而審。爲可惜焉。余閱舊志略知其顛末。恐歲月之久。功績湮沒後人無可考。因不顧不文乃記其大概。與同志者合力。刻石以垂不朽云。

明治十八年四月

陸摩 肝付兼武撰

網代鑛泉。羽村の西南二里、網代村秋川の南岸に在り、冷泉にして少量の硫黄分を含み、痲瘋質斯、瘧氣、打撲等に効能ありとて夏日浴客多し又同所の北一里平井村字鹿の島にも鑛泉あり、昔し加賀の兵士中八王子城を攻めて負傷せるもの數名此の鑛泉に浴して創を治したりとて其名漸く世に著るに至りしと云、兩所とも二二三の温泉宿あり

●青梅停車場 (東京府武藏國西多摩郡青梅町)

○青梅町。は西多摩郡中第一の都會にして市街の廣袤東西十二町、南北三町余にして戸數凡そ二千を有し郡役所、警察署等あり、此地は木綿、綿、綿絲等の産地にして世に青梅綿の名あり毎月二七の日に市を開きて其の物産を驛賣す、此地に金剛寺あり承平年間平將門の創建せし古刹にして本堂の前に將門誓の梅あり花は純白にして其實小さく能く熟すと雖も色は尚ほ青色を帯ぬ地を青梅と名けしは此梅あるが爲めならんといふ

停車場の前面に當りて一丘岡の横はるあり琴平山と云ふ頂きに登臨すれば海を隔て、遙かに房總の遠山を望むべく廣袤十里の武藏野は悉く雙眸に集まり來りて風色絶佳なり、又此地の旅舎は阪上、若狹屋等を最とし若狹屋は料理店を兼業とす

御嶽山。は青梅町を距る四里にして山上に御嶽神社あり、先づ青梅町より多摩川の北岸に沿ひ西に行く一里餘にして二俣尾村あり村内多くの桃を培養し春至れば田圃は皆紅の幕を張りしに異ならず村内海禪寺と稱する古刹の樓門より望めば殊に美觀なり、行くと二里にして萬年橋あり多摩急流の上に架したる一飛橋にして水面より高きと七八丈、其下は奇岩磊々として起伏し水之に激して玉の如く碎け雪の如く散じ目爲めに眩するの思ひあり橋を渡れば御嶽村人家のある處にして茲より本社まで登り三十町とす、御嶽神社は府社にして大己貴命、少彥名命を祭り崇神天皇七年の創建なり、社地は海面を抽くと三千八百尺にして空氣清涼、

眺欄快裕、最も遊人の避暑に適す、本社拜殿ともに頗る美を盡し境内に樓門其他攝社、末社數字あり、社前には舊御師の家橋を連ね皆旅店を業とす、祭日は毎年三月八日、五月八日なり

小河内温泉 甲府別街道の小河内村大字原村に在り、前記の萬年橋を距る四里半の山間に位し道路稍や峻しくして交通に便ならず、泉質は鹽類泉にして温度低く火力を假りて入浴に供す、近傍二三の温泉宿あるも農民樵夫の來浴するのみにして清潔とはいふ可からず食類の如きも亦稍や不便なり、是にて案内の筆を擱く

全國名所案内下編 大尾

明治廿八年八月十五日印刷
 明治廿八年八月十八日發行

定價金三十五錢



編述者 野崎左文
 發行所 京橋區采女町七番地 岩崎好正
 發行所 芝區南佐久間町二丁目十七番地 久米川治三郎
 發行所 京橋區采女町七番地 巖々堂
 發行所 京橋區銀座三丁目三番地 巖々堂出張店
 發行所 京橋區宗十郎町十五番地 國文社

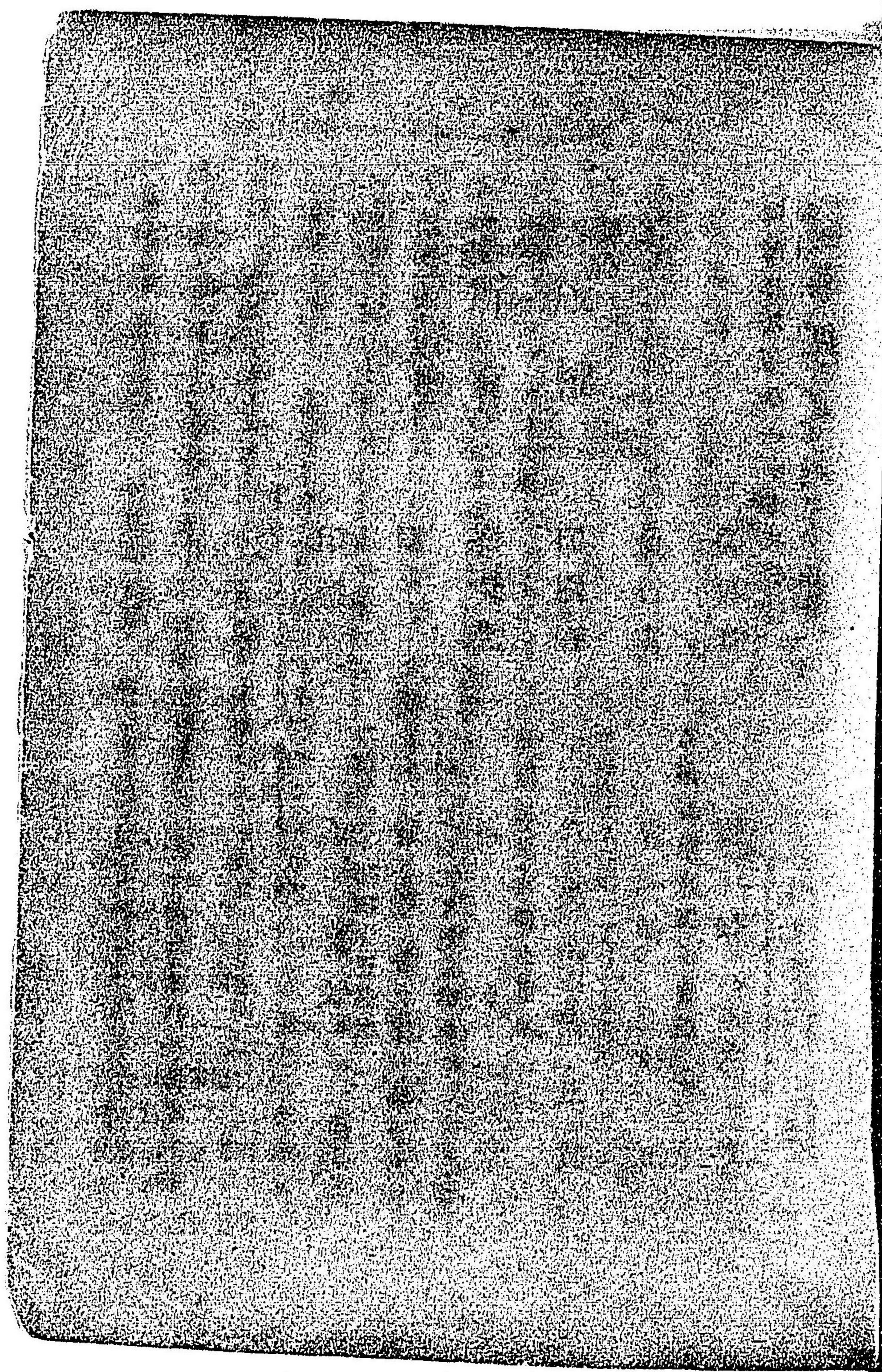
特別發賣所

東京日本橋區一丁目
 同 京橋區南傳馬町
 同 神田區神保町
 同 日本橋區油屋町
 同 京橋區南傳馬町
 同 京橋區南傳馬町
 大坂北久太郎町

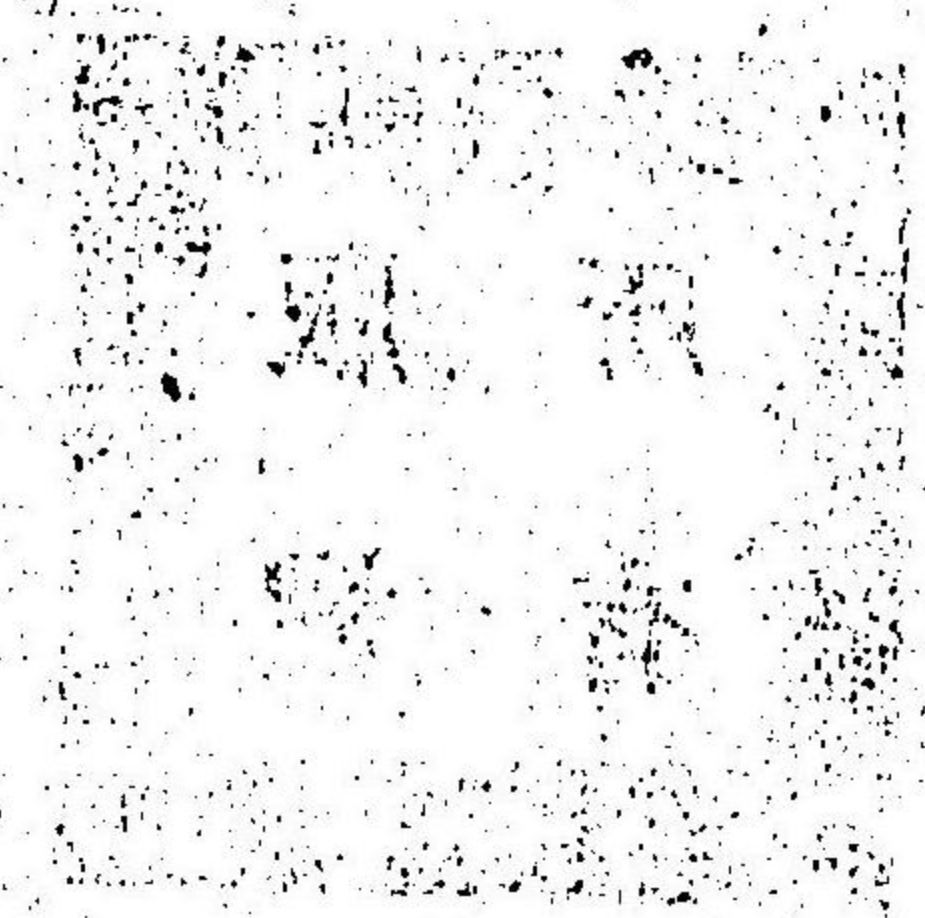
大倉書房
 目黒書房
 東慶堂
 水野次郎
 吉川半七
 北原喜兵衛

東京日本橋區錦屋町
 同 京橋區錦屋町
 同 尾張區三丁目
 同 芝區四國町
 同 本郷區元宮土町
 京都佛光寺通馬九

信長堂
 東海堂
 文島書房
 東盛書房
 盛島書房
 東盛書房



四
會
八
日
十
五



明
顯
著
明
顯
著

文
三
文
文

引
明
顯
著
明
顯
著
文
文
文

71
162

